

I 5 類定点把握感染症（性感染症を除く）

1. 2019 年の総括

2019（平成 31）年の大阪府感染症発生動向調査事業における 5 類定点把握感染症（性感染症を除く）の特徴について概説する（表）。全国では、定点あたりの年平均の週間報告数として、インフルエンザ、感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、RS ウイルス感染症、伝染性紅斑、流行性角結膜炎、ヘルパンギーナの順であった。大阪府では、インフルエンザ、感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、RS ウイルス感染症、伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱の順であり、全国の発生動向や傾向と若干の相違が認められている。

大阪府の発生動向について、2018 年と比較すると、感染性胃腸炎の年平均の週間報告数が 5.35 から 5.39 へ、昨年より、0.7%の増加が見られた。また、インフルエンザの年平均の週間報告数が 6.21 から 5.63 へ、昨年より、9.3%の減少が見られた。一方、昨年、平均週間報告数が 0.48 であった手足口病が 2019 年は 2.02 へ増加していた。

（文責：本村）

表 定点あたり年平均の週間報告数

全 国			大 阪 府		
順位	感染症	定点当たり報告数	順位	感染症	定点当たり報告数
1	インフルエンザ	7.28	1	インフルエンザ	5.63
2	感染性胃腸炎	4.92	2	感染性胃腸炎	5.39
3	手足口病	2.45	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.19
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.16	4	手足口病	2.02
5	RS ウイルス感染症	0.85	5	RS ウイルス感染症	1.22
6	伝染性紅斑	0.66	6	伝染性紅斑	0.67
7	流行性角結膜炎	0.64	7	ヘルパンギーナ	0.56
8	ヘルパンギーナ	0.59	8	咽頭結膜熱	0.50

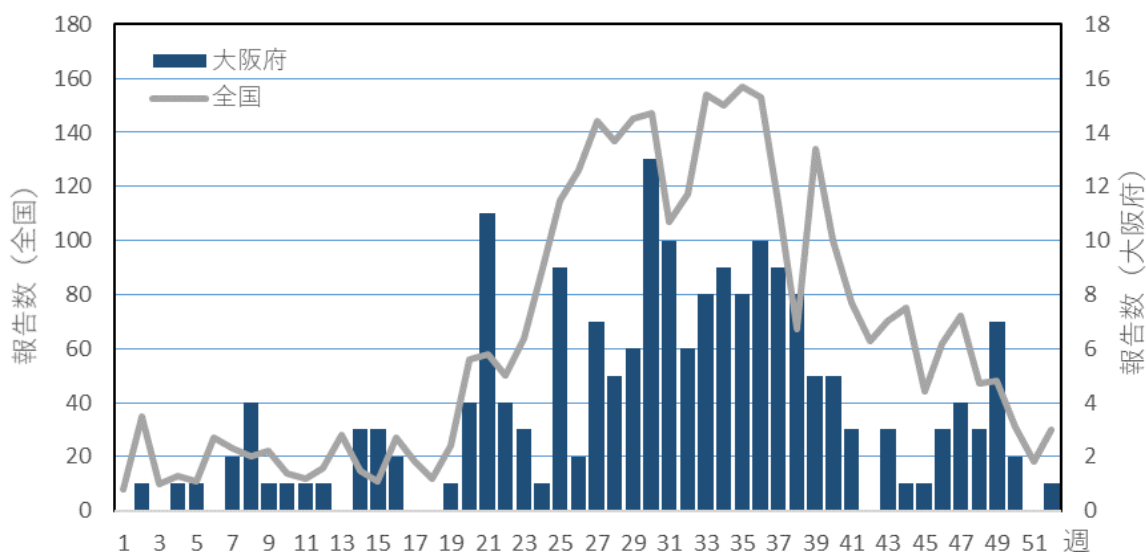
1) 2019年に注目された感染症

[腸管出血性大腸菌感染症]

腸管出血性大腸菌 (EHEC) 感染症は、志賀毒素 (Shiga toxin: Stx または Vero toxin: VT) を産生、または Stx 遺伝子を保有する EHEC の感染によって起こり、主な症状は腹痛、水溶性下痢および血便である。Stx 等の作用により、血小板減少、溶血性貧血、急性腎不全をきたす溶血性尿毒症症候群 (HUS) を発症し、死に至ることもある。EHEC 感染症は感染症法の3類感染症 (全数把握疾患) であり、当該感染症を診断した医師は直ちに保健所に届出を行う。無症状病原体保有者も届出対象となり、2019年は、全国で届出のあった3,744名のうち、約3割の1,233例が無症状病原体保有者であった (病原微生物検出情報 41: 65-66, 2020)。

EHEC 感染症の発生には季節性があり、例年夏期の報告が多く、2019年も同様であった (図1)。医師が EHEC 感染症を食中毒として保健所に届け出た場合や、保健所長が食中毒と認めた場合は、食品衛生法に基づき、各自治体は食中毒の調査を行うとともに、厚生労働省へ報告する。図2に1998年以降20年間の EHEC による食中毒の発生状況を示した。2018年は食中毒の発生件数が1998年以降最も多く、32件であった。発生件数は2016年以降増加傾向が続いている。患者数は食中毒の規模によって変動が見られるようである。毎年ではないが、死者も数名見られる。食中毒の近年の傾向としては、一見散発事例と思われる同時多発的な集団事例 (diffuse outbreak) が問題となっており、このように探知が困難な diffuse outbreak への対応を強化するため、厚生労働省は EHEC の遺伝子型別法を反復配列多型解析法 (MLVA 法) に統一し、関係機関の連携・協力体制の推進を行うことを目的として、2018

図1 腸管出血性大腸菌感染症報告数 (2019年)

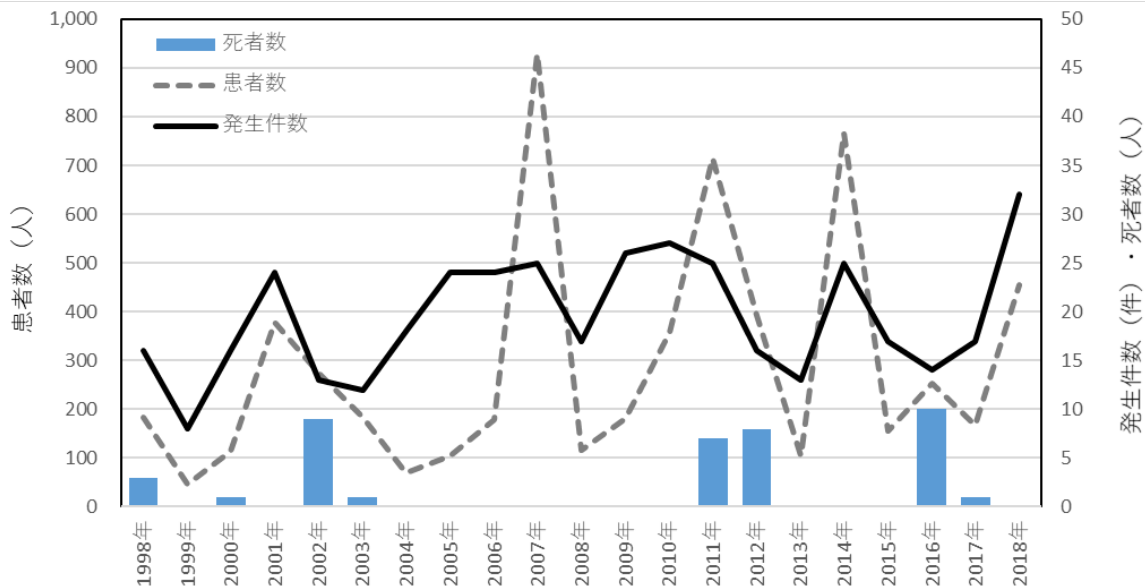


年6月に事務連絡「腸管出血性大腸菌による広域的な感染症・食中毒に関する調査について」を発出して広域的な感染症・食中毒に関する調査情報の共有手順について示している。

2019年の全国および大阪府のEHEC感染症報告数を図1に示した。全国同様、大阪府も夏期に報告数が多くなる傾向が見られたが、第8週、第21週、第49週で報告数が増加した。これらのうち、第21週の増加の原因は不明であった。第8週に見られた増加傾向は、調査により、有症者の一部が同一系列の焼肉店を2月9日から2月12日にかけて利用していたことが明らかとなった。本事例では大阪府を含む8自治体でEHEC O157 (Stx1,2) が検出され、MLVA法によるこれらの菌株の遺伝子型も一致していた。系列店で保管されていたハラミ及びその関係材料からEHEC O157 (Stx1,2) が検出され、患者由来菌株と遺伝子型が一致した（厚生労働省ホームページ：https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/daichoukin.html）。第49週の増加の原因は大阪市内の保育所で発生したEHEC O103 (Stx1) 集団感染事例による報告数の増加であった。本事例では8名から本菌が分離されたが、有症者は園児2名のみであった。また、園児の家族2名からもEHEC O103 (Stx1) が検出されたが、2名とも無症状であった。第25週は大阪市内でEHEC O157 (Stx2) による感染症が6例報告され、これらのうち3例がHUSを発症していたことからMLVA法による型別を実施したが、菌株間の関連性は不明であった。

(文責:中村)

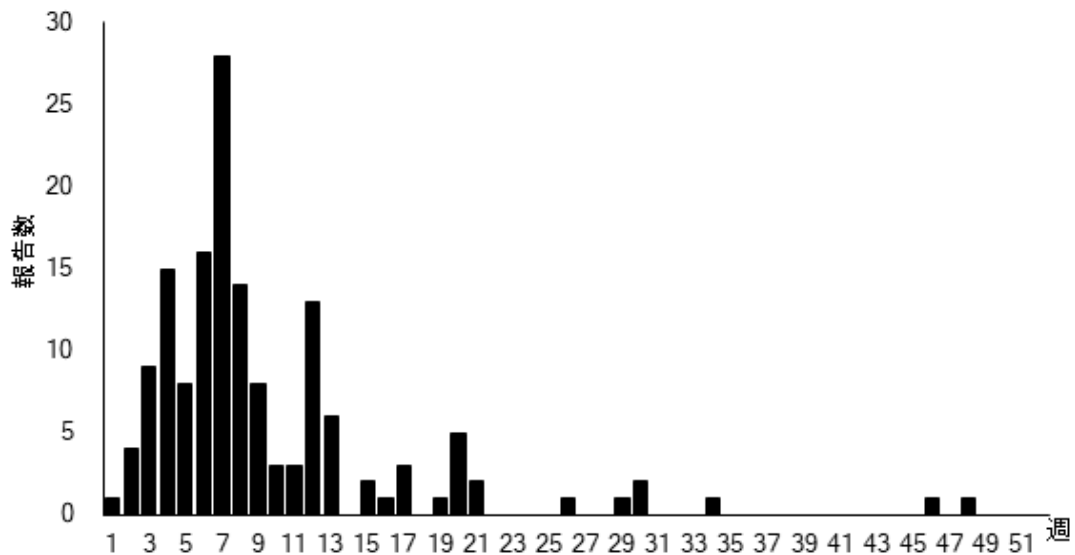
図2 腸管出血性大腸菌による食中毒の発生状況（1998-2018年）



[麻しん]

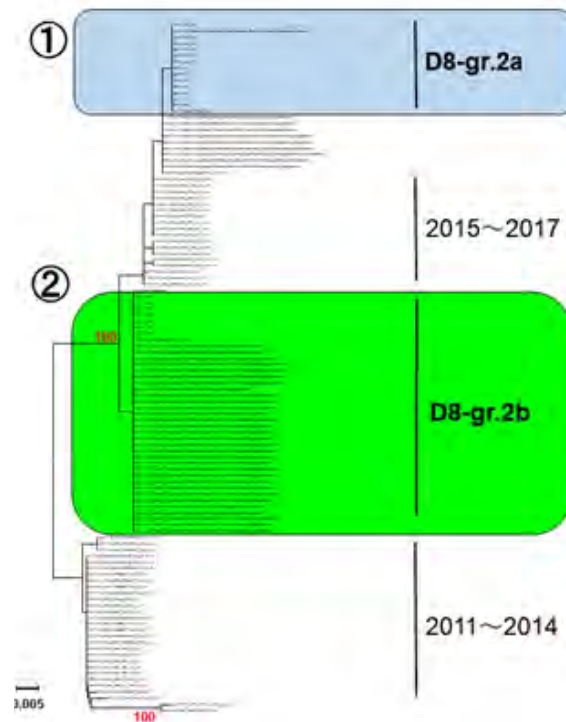
2019年、大阪府において、麻しんの4件の集団発生事例が発生した。届出数は149例であり、前年の15例に比べ、約10倍の増加となった。第4週から、報告数の増加が認められ、第6週から第12週までの間続いた。週別届出数は第7週の28例で最も多かった(図1)。

図1. 2019年の大阪府における麻しん週別報告状況



今回、大阪府で流行した麻しんウイルスについて、遺伝子型および近縁系統関係を調べるために、Nucleocapsid (N) 遺伝子 (450 塩基) の遺伝子配列を解析し、最尤法による系統樹解析を実施した。その結果、調査期間の間に、(1) 今回の調査期間内で流行した遺伝子型は、東南アジア諸国での主要な流行型である D8 型であったこと (図 2)、(2) その中でも、①と②の 2 種類の系統群にわかれていたことが判明した。遺伝子型の解析に用いた N 遺伝子は 450 塩基、150 のアミノ酸となる。アミノ酸配列で比較すると、150 アミノ酸残基の中で、5 アミノ酸残基、異なっており、系統樹解析からは①と②を枝分かれする信頼値が 100 であることから、①と②は、同じ D8 型であるが、異なる亜株である可能性が高い (表、図 2)。①の麻しんの配列は、系統樹解析の樹形より、従来、存在していた麻しんウイルスが変異を蓄積して新生した可能性がある。この麻しんウイルスの配列の公共データベースでの登録数は、東南アジア諸国からの報告が主であるが、まだ、少ない (図 2)。①の麻しんの配列について、疫学情報と合わせて、index case は、タイ渡航時に、感染したと考えられる。一方、②の麻しんウイルスの配列は、2017 年後半から世界各地 (北米、ヨーロッパ、インド、香港) から、公共データベースに多数、登録されており、系統樹解析の樹形および信頼値より、新しい変異株の可能性が高い (図: 系統樹)。国立感染症研究所の関らは、①の麻しんの配列を D8-gr.2a、

図 2. 麻しんウイルス Nucleocapsid (N) 遺伝子の近縁系統樹解析



D8型 N 遺伝子 (450 bps) (Boot strap value >90)

②の麻しんの配列を D8-gr.2b と命名しており、2019年1-3月期に、大阪をはじめ全国で多く検出されていた麻しんウイルスは D8-gr.2b であった (Seki, *et al.* *Frontiers in Microbiology*, 2019)。この時期は、世界各地で麻しんの集団発生があったことにより、国内外の旅行者が日本国内に麻しんウイルスを持ち込み、流行の起点になった可能性がある。

①と②のアミノ酸配列を比較すると、5アミノ酸が置換していた (表)。69番目が①：グルタミン、②：アルギニン、71番目が①：グリシン、②：グルタミン酸、84番目が①：ロイシン、②：セリン、122番目が①：リジン、②：アルギニン、147番目が①：アスパラギン、②：アスパラギン酸であった。84番目のアミノ酸のみ、①：ロイシン（疎水性）から②：セリン（親水性）へ、性質が異なるアミノ酸に置換しており、立体構造上、大きく変化している可能性がある (表)。

表 麻しんウイルス ①および②の Nucleocapsid タンパク質のアミノ酸配列の比較

	69	71	84	122	147
①	グルタミン	グリシン	ロイシン	リジン	アスパラギン
②	アルギニン	グルタミン酸	セリン	アルギニン	アスパラギン酸

2013 年から 2017 年の日本の輸入麻疹症例の報告数は、フィリピン、インドネシア、中国、ベトナムの順に多い。2018-2019 年にかけて、世界各地で麻疹が流行し、特にアジアでは、フィリピン、タイで増加していた。近年、ヒトの交流、経済活動の活発化に伴い、国内外の旅行者が麻疹常在国から、国内へ麻疹ウイルスを持ち込まれる可能性は今後も継続するといえる。2015 年 3 月、WHO（世界保健機関）西太平洋事務局より、日本は麻疹の排除状態にある認定を受けていたが、海外への渡航者と海外から来日する外国人の増加に伴い、日本国内での麻疹の発生に対する注意は今後も必要であり、ワクチン 1 回接種世代の 30 歳代へのワクチン接種の徹底などの対策が求められる。

(文責：本村)

2) 感染症別・週別患者報告状況

「2019年の総括」で記した疾患について、定点当たり報告数の最高値が報告された週や最高値を示した（表1）。インフルエンザは、2018年と比較して、1月第4週に最高値を示し、過去5年と比べて、最も高い定点当たり報告数となった。2019年1月は、A型インフルエンザウイルスが主として検出され、B型インフルエンザウイルスは少なかった。また、手足口病が2年ぶりに大流行し、例年7月に最高値に達するが、2019年は6月第2週に最高値を示した。感染性胃腸炎は、2018年同様に、少ない報告数を示しており、12月第3週に、最高値を示している。RSウイルス感染症は、2018年と比較して1週遅く、9月第2週に最高値4.55を示した。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、毎年、二峰性の流行パターンを示しており、2017年と2018年は5月に最高値に達しているが、2019年は12月第2週であった。ヘルパンギーナは、手足口病同様、エンテロウイルスによって引き起こされるが、手足口病より遅く7月第2週に最高値になっていた。感染性胃腸炎（ロタウイルス）は、3月第3週に2.00となっている。2019年は2-3月にかけて、ロタウイルスの集団発生事例が発生したためだと考えられる。

2019年と2018年における感染症発生動向の増減を比較すると、2019年は、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、手足口病、伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎（ロタウイルス）が増加傾向であった（表2）。インフルエンザ、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎、細菌性髄膜炎、感染性胃腸炎（ロタウイルス）が増加傾向を示していた。特に、増減率をみると、手足口病が前年に比べ4.16倍、伝染性紅斑は4.15倍になっていた。伝染性紅斑は妊娠初期に妊婦が感染すると胎児水腫をきたし流産の原因になることがあり、発生動向を注視する必要がある。（文責：本村）

表1. 定点あたり報告数の最高値が報告された週および最高値（2019年）

大阪府				
	疾患	定点当たり報告数の最高値が報告された週	定点当たり報告数の最高値	警報レベル開始基準値
1	インフルエンザ	4週(1月第4週)	47.99	30
2	手足口病	24週(6月第2週)	10.05	5
3	感染性胃腸炎	51週(12月第3週)	8.51	20
4	RSウイルス感染症	37週(9月第2週)	4.55	未設定
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	50週(12月第2週)	3.51	8
6	ヘルパンギーナ	28週(7月第2週)	2.27	6
7	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	12週(3月第3週)	2.00	未設定

表2. 2019年と2018年における感染症発生動向比較

インフルエンザ定点疾患	2019年	2018年
インフルエンザ ↓	88,389	98,247

小児科定点疾患	2019年	2018年
RSウイルス感染症 ↑	12,478	10,174
咽頭結膜熱 ↓	5,167	5,234
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 ↑	22,513	21,308
感染性胃腸炎 ↑	55,374	55,220
水痘 ↓	3,227	3,919
手足口病 ↑	20,733	4,981
伝染性紅斑 ↑	6,840	1,648
突発性発しん ↓	3,867	4,481
ヘルパンギーナ ↑	5,756	5,293
流行性耳下腺炎 ↓	836	1,251
合計	136,791	113,509

眼科定点疾患	2019年	2018年
急性出血性結膜炎 ↓	21	45
流行性角結膜炎 ↓	875	1,285
合計	896	1,330

基幹定点疾患	2019年	2018年
細菌性髄膜炎 ↓	18	19
無菌性髄膜炎 ↑	31	26
マイコプラズマ肺炎 ↓	129	165
クラミジア肺炎（オウム病を除く） ↓	1	2
感染性胃腸炎（ロタウイルス） ↑	382	239
合計	561	451

3) 感染症別・ブロック別患者報告状況

大阪府内を11ブロック（1. 豊能、2. 三島、3. 北河内、4. 中河内、5. 南河内、6. 堺市、7. 泉州、8. 大阪市北部、9. 大阪市西部、10. 大阪市東部、11. 大阪市南部）に分け、各ブロックの構成市町村、定点数、人口、出生数を解析評価した。感染症別に、1年間でより流行が認められた地域を定点当たりの年平均報告数を表に要約した。年平均の定点当たり報告数から地域ブロックを評価した場合、上位8疾患のうち、南河内は3疾患（感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症）で首位を占めていた（表）。一方、大阪市東部ブロックは45?疾患（感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、手足口病）で、最下位であった。

（文責：本村）

表. 感染症別・ブロック別患者報告状況（網掛けは最高ブロックと定点あたり報告数）

インフルエンザ		感染性胃腸炎		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		手足口病	
豊能	5.05	豊能	5.08	豊能	1.42	豊能	1.65
三島	4.06	三島	4.35	三島	1.28	三島	1.49
北河内	5.83	北河内	6.02	北河内	2.83	北河内	2.39
中河内	4.56	中河内	6.57	中河内	2.46	中河内	2.23
南河内	7.11	南河内	9.10	南河内	3.87	南河内	3.41
堺市	6.48	堺市	3.05	堺市	2.65	堺市	1.59
泉州	5.25	泉州	5.46	泉州	2.14	泉州	1.81
大阪市北部	6.87	大阪市北部	6.10	大阪市北部	1.48	大阪市北部	2.70
大阪市西部	9.80	大阪市西部	5.77	大阪市西部	2.03	大阪市西部	1.81
大阪市東部	4.17	大阪市東部	2.71	大阪市東部	1.10	大阪市東部	1.20
大阪市南部	5.00	大阪市南部	5.11	大阪市南部	2.38	大阪市南部	1.99
府内平均	5.63	府内平均	5.39	府内平均	2.19	府内平均	2.02

RSウイルス感染症		伝染性紅斑		ヘルパンギーナ		咽頭結膜熱	
豊能	0.72	豊能	0.59	豊能	0.50	豊能	0.31
三島	0.59	三島	0.35	三島	0.42	三島	0.48
北河内	1.52	北河内	1.04	北河内	0.74	北河内	0.66
中河内	1.07	中河内	0.75	中河内	0.50	中河内	0.73
南河内	1.97	南河内	0.79	南河内	0.57	南河内	0.72
堺市	1.15	堺市	0.65	堺市	0.50	堺市	0.43
泉州	0.89	泉州	0.87	泉州	0.47	泉州	0.53
大阪市北部	2.30	大阪市北部	0.66	大阪市北部	1.13	大阪市北部	0.34
大阪市西部	1.71	大阪市西部	0.36	大阪市西部	0.61	大阪市西部	0.31
大阪市東部	0.95	大阪市東部	0.37	大阪市東部	0.27	大阪市東部	0.33
大阪市南部	1.07	大阪市南部	0.50	大阪市南部	0.54	大阪市南部	0.51
府内平均	1.22	府内平均	0.67	府内平均	0.56	府内平均	0.50

4) 感染症別・年齢別別患者報告状況

インフルエンザ定点、基幹定点を除いた小児科定点における年齢報告数で最も多かった年齢は1歳代、次いで5歳代、1歳未満、4歳代、と続く。1歳代の報告数の多い疾患は、感染性胃腸炎、咽頭結膜熱、手足口病、突発性発しん、ヘルパンギーナ、であった。20歳以上の報告数の多い疾患は、インフルエンザ、急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎である。5歳代の報告数の多い疾患は、伝染性紅斑、流行性耳下腺炎であった。4歳代の報告数の多い疾患は、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。水痘は10-14歳代の報告数が多かった。

インフルエンザは、小児科定点に加え、内科定点医療機関からも報告されるため、20歳以上の報告数が最多で、次が10歳から14歳代であった。小学校、中学校、職場など、集団生活を送る世代に多い疾患である。眼科定点疾患の急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎は20歳以上が多い。

(文責：本村)

表. 定点あたり報告数の最高値が報告された年齢区分

疾患名	最高値が報告された年齢区分
インフルエンザ	20歳以上
RSウイルス感染症	1歳未満
咽頭結膜熱	1歳代
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4歳代
感染性胃腸炎	1歳代
水痘	10～14歳代
手足口病	1歳代
伝染性紅斑	5歳代
突発性発しん	1歳代
ヘルパンギーナ	1歳代
流行性耳下腺炎	5歳代
急性出血性結膜炎	20歳以上
流行性角結膜炎	20歳以上

2019年 感染症別・週別報告状況（全国集計）

	1月					2月				3月			
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
インフルエンザ	78,399	191,756	268,220	284,036	214,762	130,639	61,987	44,671	29,415	20,487	14,502	12,334	8,585
RSウイルス感染症	913	1,237	1,141	1,370	1,262	1,343	1,289	1,401	1,492	1,473	1,560	1,592	1,547
咽頭結膜熱	730	1,342	853	1,010	907	1,050	959	968	1,052	1,031	1,177	1,079	1,092
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2,494	6,632	6,540	7,947	7,915	7,972	6,582	8,474	8,585	9,104	9,100	7,827	6,556
感染性胃腸炎	9,601	23,895	20,770	21,860	20,633	19,186	16,181	19,017	18,877	19,311	19,178	17,523	16,433
水痘	1,316	1,741	857	1,132	794	920	839	953	895	1,059	1,029	1,146	1,076
手足口病	334	445	545	421	397	418	321	382	417	433	511	476	625
伝染性紅斑	1,167	3,170	2,808	2,778	2,313	1,821	1,579	1,888	1,804	1,717	1,839	1,778	1,595
突発性発しん	473	1,158	993	965	957	929	879	1,122	1,083	1,162	1,251	1,168	1,185
ヘルパンギーナ	32	62	47	55	39	47	48	41	83	66	84	79	96
流行性耳下腺炎	197	322	285	262	303	291	238	297	286	342	306	277	278
急性出血性結膜炎	10	6	3	6	6	11	6	4	4	7	3	7	12
流行性角結膜炎	361	718	455	472	466	445	376	374	342	307	341	370	417
細菌性髄膜炎	7	15	11	7	11	14	7	9	12	9	9	7	10
無菌性髄膜炎	6	15	9	10	9	12	6	14	13	8	12	10	7
マイコプラズマ肺炎	75	143	112	130	111	88	64	69	96	69	67	46	72
クラミジア肺炎（オウム病を除く）		2	2	2	4	2	2	1		1	3	2	6
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	26	28	27	46	39	63	70	70	142	135	194	186	212

	7月					8月				9月			
	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
インフルエンザ	861	923	920	782	947	1,078	1,077	1,154	1,930	3,842	5,791	5,724	4,557
RSウイルス感染症	1,267	1,989	2,083	3,191	4,456	5,473	3,990	4,294	7,741	9,901	10,914	9,206	7,483
咽頭結膜熱	2,014	2,003	1,489	1,524	1,484	1,540	1,056	1,300	1,355	1,416	1,508	1,265	1,150
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6,631	6,230	4,787	4,733	4,067	3,953	2,248	3,436	3,880	4,685	4,923	4,548	4,476
感染性胃腸炎	14,848	13,696	10,705	10,828	10,189	9,884	5,760	9,331	9,755	10,732	10,340	9,200	8,659
水痘	1,111	1,181	878	1,040	868	791	587	743	511	721	612	747	661
手足口病	31,171	40,151	38,135	42,601	33,413	22,762	9,168	8,626	9,636	9,855	8,902	6,880	5,755
伝染性紅斑	2,879	2,889	2,858	2,801	2,392	1,917	874	1,974	2,255	2,553	2,124	1,467	1,772
突発性発しん	1,563	1,496	1,306	1,392	1,379	1,370	753	1,429	1,287	1,371	1,385	1,174	1,105
ヘルパンギーナ	6,742	9,166	8,052	9,439	7,756	6,237	2,856	3,128	3,831	4,071	3,829	2,512	1,860
流行性耳下腺炎	447	403	329	338	265	256	189	270	297	278	305	285	270
急性出血性結膜炎	6	5	9	3	15	6	1	6	9	9	8	1	6
流行性角結膜炎	446	498	430	519	539	531	364	587	549	544	565	520	507
細菌性髄膜炎	10	11	6	9	11	9	8	8	5	10	6	4	8
無菌性髄膜炎	17	27	17	21	16	15	28	30	18	23	25	23	22
マイコプラズマ肺炎	78	73	78	88	80	87	95	114	123	149	132	167	142
クラミジア肺炎（オウム病を除く）		1	4		5	2			1	2	2	4	1
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	40	31	23	12	9	4	9	4	5	5	7	1	5

I 5 類定点把握感染症（性感染症を除く）

4月					5月				6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
7,248	8,294	12,621	10,767	4,759	3,650	4,563	3,095	2,442	1,715	1,240	977	898
1,401	1,658	1,833	1,789	699	797	866	1,031	766	653	823	926	1,018
872	985	1,237	1,519	602	1,562	1,349	2,040	1,993	2,171	2,150	2,153	2,036
6,147	7,175	8,758	9,073	2,283	6,028	9,055	8,446	9,008	8,437	8,207	8,170	7,104
16,991	20,002	25,445	25,997	6,433	16,605	22,203	21,026	20,734	19,341	17,376	17,123	15,317
1,013	991	912	1,191	611	1,542	954	1,415	1,143	1,423	1,243	1,169	1,380
539	888	1,226	1,747	1,003	1,305	3,055	4,879	6,201	8,857	12,751	16,433	21,339
1,786	1,856	2,645	2,498	669	2,170	2,900	2,610	2,226	2,247	2,123	2,944	2,869
1,251	1,386	1,599	1,761	543	1,423	1,491	1,714	1,744	1,728	1,589	1,564	1,571
118	134	219	239	159	295	603	981	1,168	1,790	2,899	3,789	4,556
260	251	283	299	151	313	333	375	429	407	448	422	472
5	9	9	15	2	7	9	8	5	15	11	7	7
432	381	447	441	146	489	418	399	423	438	469	479	472
17	7	8	12	5	9	11	11	11	6	7	10	9
8	17	13	11	6	8	9	11	21	10	11	15	15
45	60	70	51	63	53	64	47	73	72	68	67	95
4	4	1	4	1	2	1	1	2	2		1	1
259	301	464	443	280	267	288	241	217	186	112	104	73

10月					11月				12月				合計
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
4,900	4,447	3,558	3,954	4,708	5,090	9,129	15,438	27,664	47,325	77,541	105,487	115,188	1,876,077
6,562	5,822	3,924	3,201	2,819	2,099	1,833	1,605	1,660	1,598	1,621	1,707	1,772	140,091
1,283	1,238	1,062	1,225	1,275	1,248	1,599	1,758	2,007	2,302	2,522	2,446	2,460	75,448
5,272	5,304	4,878	5,258	6,580	5,631	8,194	8,098	9,865	10,365	11,264	11,785	10,376	355,086
9,853	9,537	8,874	9,332	10,529	9,982	12,955	13,715	16,983	18,839	20,915	23,671	22,975	809,145
792	702	701	915	1,029	1,029	1,291	1,385	1,868	1,795	2,139	1,998	1,959	56,798
5,796	5,722	4,634	4,243	4,632	4,329	3,673	3,357	3,421	3,072	2,627	2,214	1,806	402,529
2,041	1,718	1,389	1,862	1,872	1,675	1,745	1,758	1,911	1,946	1,917	2,003	1,831	108,223
1,202	1,177	1,129	1,077	1,196	1,040	1,248	1,110	1,239	1,125	1,148	1,051	1,078	64,519
1,968	1,871	1,049	955	952	669	509	445	403	365	245	213	217	97,069
341	289	268	238	237	216	264	221	199	185	208	242	185	15,152
3	3	2	4	2	4	3	5	7	6	10	5	11	343
560	484	435	394	432	418	418	350	410	416	413	449	421	23,077
6	5	10	7	11	9	8	6	11	9	14	5	20	477
13	24	24	21	17	20	11	17	24	19	19	17	17	811
183	198	172	180	213	215	249	247	187	229	218	228	175	6,070
1		3	4	1		2	1	1	3	2	1	3	95
7	6	6	3	1	3	2	4	9	8	4	5	8	4,694

2019年 感染症別・週別定点あたり報告状況（全国集計）

	1月					2月				3月			
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
インフルエンザ	16.34	38.64	54.01	57.18	43.24	26.32	12.48	9.00	5.92	4.12	2.92	2.49	1.73
RSウイルス感染症	0.30	0.39	0.36	0.43	0.40	0.42	0.41	0.44	0.47	0.46	0.49	0.50	0.49
咽頭結膜熱	0.24	0.42	0.27	0.32	0.29	0.33	0.30	0.30	0.33	0.32	0.37	0.34	0.34
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.82	2.09	2.06	2.50	2.49	2.51	2.07	2.67	2.71	2.87	2.87	2.47	2.07
感染性胃腸炎	3.16	7.54	6.54	6.88	6.50	6.05	5.10	5.99	5.95	6.08	6.05	5.53	5.18
水痘	0.43	0.55	0.27	0.36	0.25	0.29	0.26	0.30	0.28	0.33	0.32	0.36	0.34
手足口病	0.11	0.14	0.17	0.13	0.13	0.13	0.10	0.12	0.13	0.14	0.16	0.15	0.20
伝染性紅斑	0.38	1.00	0.88	0.87	0.73	0.57	0.50	0.59	0.57	0.54	0.58	0.56	0.50
突発性発しん	0.16	0.37	0.31	0.30	0.30	0.29	0.28	0.35	0.34	0.37	0.39	0.37	0.37
ヘルパンギーナ	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.02	0.01	0.03	0.02	0.03	0.02	0.03
流行性耳下腺炎	0.06	0.10	0.09	0.08	0.10	0.09	0.07	0.09	0.09	0.11	0.10	0.09	0.09
急性出血性結膜炎	0.01	0.01	0.00	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.01	0.02
流行性角結膜炎	0.53	1.03	0.65	0.68	0.67	0.64	0.54	0.54	0.49	0.44	0.49	0.53	0.60
細菌性髄膜炎	0.01	0.03	0.02	0.01	0.02	0.03	0.01	0.02	0.03	0.02	0.02	0.01	0.02
無菌性髄膜炎	0.01	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.03	0.03	0.02	0.03	0.02	0.01
マイコプラズマ肺炎	0.16	0.30	0.23	0.27	0.23	0.18	0.13	0.14	0.20	0.14	0.14	0.10	0.15
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.01
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.05	0.06	0.06	0.10	0.08	0.13	0.15	0.15	0.30	0.28	0.41	0.39	0.44

	7月					8月				9月			
	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
インフルエンザ	0.17	0.19	0.19	0.16	0.19	0.22	0.23	0.23	0.39	0.78	1.17	1.16	0.92
RSウイルス感染症	0.40	0.63	0.66	1.01	1.41	1.77	1.32	1.37	2.45	3.13	3.45	2.91	2.37
咽頭結膜熱	0.63	0.63	0.47	0.48	0.47	0.50	0.35	0.41	0.43	0.45	0.48	0.40	0.36
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.09	1.97	1.51	1.49	1.28	1.28	0.74	1.09	1.23	1.48	1.56	1.44	1.42
感染性胃腸炎	4.68	4.32	3.38	3.42	3.22	3.19	1.91	2.97	3.09	3.39	3.27	2.91	2.74
水痘	0.35	0.37	0.28	0.33	0.27	0.26	0.19	0.24	0.16	0.23	0.19	0.24	0.21
手足口病	9.82	12.68	12.03	13.44	10.55	7.34	3.04	2.74	3.05	3.11	2.82	2.17	1.82
伝染性紅斑	0.91	0.91	0.90	0.88	0.76	0.62	0.29	0.63	0.71	0.81	0.67	0.46	0.56
突発性発しん	0.49	0.47	0.41	0.44	0.44	0.44	0.25	0.45	0.41	0.43	0.44	0.37	0.35
ヘルパンギーナ	2.12	2.89	2.54	2.98	2.45	2.01	0.95	0.99	1.21	1.29	1.21	0.79	0.59
流行性耳下腺炎	0.14	0.13	0.10	0.11	0.08	0.08	0.06	0.09	0.09	0.09	0.10	0.09	0.09
急性出血性結膜炎	0.01	0.01	0.01	0.00	0.02	0.01	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.01
流行性角結膜炎	0.64	0.71	0.62	0.74	0.77	0.78	0.54	0.85	0.79	0.78	0.81	0.75	0.73
細菌性髄膜炎	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.02
無菌性髄膜炎	0.04	0.06	0.04	0.04	0.03	0.03	0.06	0.06	0.04	0.05	0.05	0.05	0.05
マイコプラズマ肺炎	0.16	0.15	0.16	0.18	0.17	0.18	0.20	0.24	0.26	0.31	0.28	0.35	0.30
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0.00	0.00	0.01	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.08	0.06	0.05	0.03	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.01

I 5 類定点把握感染症（性感染症を除く）

4月					5月				6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
1.46	1.67	2.54	2.18	1.03	0.74	0.92	0.62	0.49	0.35	0.25	0.20	0.18
0.44	0.52	0.58	0.57	0.24	0.25	0.27	0.33	0.24	0.21	0.26	0.29	0.32
0.28	0.31	0.39	0.48	0.21	0.49	0.43	0.64	0.63	0.68	0.68	0.68	0.64
1.94	2.26	2.76	2.88	0.78	1.90	2.86	2.66	2.84	2.66	2.59	2.58	2.24
5.37	6.31	8.03	8.24	2.21	5.24	7.00	6.63	6.53	6.10	5.49	5.40	4.83
0.32	0.31	0.29	0.38	0.21	0.49	0.30	0.45	0.36	0.45	0.39	0.37	0.43
0.17	0.28	0.39	0.55	0.34	0.41	0.96	1.54	1.95	2.79	4.03	5.18	6.73
0.56	0.59	0.83	0.79	0.23	0.68	0.91	0.82	0.70	0.71	0.67	0.93	0.90
0.40	0.44	0.50	0.56	0.19	0.45	0.47	0.54	0.55	0.54	0.50	0.49	0.50
0.04	0.04	0.07	0.08	0.05	0.09	0.19	0.31	0.37	0.56	0.92	1.19	1.44
0.08	0.08	0.09	0.09	0.05	0.10	0.11	0.12	0.14	0.13	0.14	0.13	0.15
0.01	0.01	0.01	0.02	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01
0.62	0.54	0.64	0.64	0.23	0.70	0.60	0.57	0.61	0.63	0.67	0.69	0.68
0.04	0.01	0.02	0.03	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	0.02
0.02	0.04	0.03	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02	0.04	0.02	0.02	0.03	0.03
0.09	0.13	0.15	0.11	0.13	0.11	0.13	0.10	0.15	0.15	0.14	0.14	0.20
0.01	0.01	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
0.54	0.63	0.97	0.93	0.59	0.56	0.60	0.50	0.45	0.39	0.23	0.22	0.15

10月					11月				12月				平均
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
0.99	0.90	0.72	0.80	0.95	1.03	1.84	3.11	5.57	9.53	15.61	21.23	23.27	7.28
2.07	1.84	1.24	1.01	0.89	0.66	0.58	0.51	0.52	0.50	0.51	0.54	0.56	0.85
0.40	0.39	0.34	0.39	0.40	0.39	0.50	0.56	0.63	0.73	0.80	0.77	0.78	0.46
1.66	1.68	1.54	1.66	2.08	1.78	2.58	2.56	3.11	3.27	3.55	3.72	3.28	2.16
3.11	3.02	2.81	2.94	3.33	3.15	4.09	4.33	5.35	5.94	6.60	7.46	7.27	4.92
0.25	0.22	0.22	0.29	0.33	0.32	0.41	0.44	0.59	0.57	0.67	0.63	0.62	0.35
1.83	1.81	1.47	1.34	1.46	1.37	1.16	1.06	1.08	0.97	0.83	0.70	0.57	2.45
0.64	0.54	0.44	0.59	0.59	0.53	0.55	0.56	0.60	0.61	0.60	0.63	0.58	0.66
0.38	0.37	0.36	0.34	0.38	0.33	0.39	0.35	0.39	0.35	0.36	0.33	0.34	0.39
0.62	0.59	0.33	0.30	0.30	0.21	0.16	0.14	0.13	0.12	0.08	0.07	0.07	0.59
0.11	0.09	0.08	0.08	0.07	0.07	0.08	0.07	0.06	0.06	0.07	0.08	0.06	0.09
0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.01	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01
0.80	0.70	0.63	0.56	0.62	0.60	0.60	0.50	0.59	0.60	0.59	0.65	0.61	0.64
0.01	0.01	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02	0.03	0.01	0.04	0.02
0.03	0.05	0.05	0.04	0.04	0.04	0.02	0.04	0.05	0.04	0.04	0.04	0.04	0.03
0.38	0.41	0.36	0.38	0.44	0.45	0.52	0.52	0.39	0.48	0.46	0.48	0.37	0.24
0.00	0.00	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	0.01	0.00
0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.01	0.00	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	0.19

2019年 感染症別・週別報告状況（大阪府内集計）

	1月					2月					3月			
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	
定点数														
インフルエンザ	302	302	302	302	302	302	302	302	302	303	303	304	304	
小児科	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	
眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	
基幹	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	
インフルエンザ	4,429	11,137	14,007	14,493	10,457	6,512	2,803	1,961	1,381	964	559	504	350	
RSウイルス感染症	79	118	123	134	116	136	158	172	197	225	228	247	233	
咽頭結膜熱	38	99	70	60	66	86	85	75	95	71	95	93	97	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	131	365	380	447	448	458	354	510	550	586	536	459	430	
感染性胃腸炎	507	1,425	1,357	1,490	1,432	1,280	1,177	1,404	1,314	1,405	1,405	1,230	1,112	
水痘	74	114	54	68	62	73	41	52	70	53	72	52	61	
手足口病	19	31	22	22	24	31	40	32	36	66	55	50	86	
伝染性紅斑	32	111	112	105	95	67	62	83	86	83	80	101	100	
突発性発しん	18	61	62	59	59	46	60	65	61	60	76	58	81	
ヘルパンギーナ	4	5	6	3	4	5	4	4	4	5	11	8	10	
流行性耳下腺炎	8	11	29	23	8	16	12	12	13	22	14	18	15	
急性出血性結膜炎										1				
流行性角結膜炎	7	30	19	15	20	7	18	3	8	12	15	14	17	
合計（RSウイルス-流行性角結）	917	2,370	2,234	2,426	2,334	2,205	2,011	2,412	2,434	2,589	2,587	2,330	2,242	
細菌性髄膜炎			3		1		1	1	2	1			1	
無菌性髄膜炎								1						
マイコプラズマ肺炎	1	4	2	4	1	1	4	1	3	2	3	3	3	
クラミジア肺炎（オウム病を除く）														
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	2	2	8	11	9	10	18	14	22	26	20	34	27	
合計（細菌性髄-ロタウイルス）	3	6	13	15	11	11	23	17	27	29	23	37	31	

	7月					8月					9月			
	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	
定点数														
インフルエンザ	300	301	301	301	301	301	301	301	301	300	300	300	300	
小児科	197	197	197	197	197	197	197	197	197	196	196	196	196	
眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	
基幹	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	
インフルエンザ	21	13	26	16	17	23	14	14	25	81	105	116	90	
RSウイルス感染症	70	118	140	151	225	309	206	244	467	701	892	834	755	
咽頭結膜熱	129	137	109	133	129	124	73	92	113	118	119	63	57	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	462	463	354	350	277	325	126	202	295	276	379	281	282	
感染性胃腸炎	923	876	748	821	704	798	329	699	790	756	771	688	560	
水痘	52	68	58	59	70	40	40	42	41	41	62	52	56	
手足口病	1,729	1,703	1,186	901	679	464	195	217	285	308	261	239	166	
伝染性紅斑	257	220	255	212	191	181	47	129	156	201	160	98	120	
突発性発しん	91	84	79	84	91	95	35	96	101	96	75	72	60	
ヘルパンギーナ	433	447	373	378	336	291	116	150	189	246	203	132	111	
流行性耳下腺炎	31	24	11	13	11	11	14	24	18	16	15	25	17	
急性出血性結膜炎										2				
流行性角結膜炎	28	19	19	25	29	26	11	35	28	28	20	20	23	
合計（RSウイルス-流行性角結）	4,205	4,159	3,332	3,127	2,742	2,664	1,192	1,930	2,485	2,787	2,957	2,504	2,207	
細菌性髄膜炎					1									
無菌性髄膜炎		3	2		1		1	2	2	1	1		1	
マイコプラズマ肺炎		1			3	2	8	6	2	4	2	2	4	
クラミジア肺炎（オウム病を除く）														
感染性胃腸炎（ロタウイルス）		1				1				1	1			
合計（細菌性髄-ロタウイルス）	0	5	2	0	5	3	9	8	4	6	4	2	5	

I 5 類定点把握感染症（性感染症を除く）

4月					5月				6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
303	301	301	301	301	301	301	300	300	300	300	300	300
198	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
287	329	644	762	266	192	215	206	192	130	96	32	35
202	233	258	201	92	87	64	70	73	44	54	41	41
85	100	109	148	42	132	104	149	121	154	151	143	133
370	472	563	574	127	448	607	596	663	654	564	510	470
1,062	1,400	1,657	1,701	470	1,047	1,324	1,362	1,338	1,267	1,106	1,085	908
57	48	45	61	46	71	43	61	50	54	59	53	63
85	161	245	365	166	207	502	772	930	1,411	1,979	1,803	1,780
103	118	158	144	30	131	168	150	129	170	188	233	240
79	95	84	126	36	93	85	96	100	87	97	87	95
11	19	23	27	24	36	63	112	140	262	397	350	372
11	8	15	19	6	23	18	24	23	15	36	9	17
	1		3		1	3	1	1		2		
19	13	9	16	2	13	12	24	16	19	15	22	13
2,084	2,668	3,166	3,385	1,041	2,289	2,993	3,417	3,584	4,137	4,648	4,336	4,132
1						1		1				
1	2							1				1
1	1		1	1					1			
16	18	24	34	13	18	14	7	10	10	4	3	3
19	21	24	35	14	18	15	7	12	11	4	3	4

10月					11月				12月				合計
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
300	300	300	301	301	301	301	301	301	301	301	301	300	15,658
196	196	196	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	10,264
52	52	52	52	51	51	51	51	51	51	51	51	51	2,695
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	845
93	65	70	77	115	139	254	363	598	1,171	2,500	4,120	5,320	88,389
698	702	464	385	313	231	153	116	130	137	123	147	141	12,478
68	68	64	72	69	66	75	88	94	136	121	113	136	5,167
292	354	298	281	402	357	500	493	591	632	691	684	594	22,513
648	661	599	581	736	717	1,034	1,081	1,345	1,455	1,517	1,677	1,595	55,374
58	46	27	63	49	70	92	91	121	84	91	100	97	3,227
164	179	148	125	154	108	96	94	89	91	71	84	77	20,733
152	129	84	118	143	109	115	119	108	127	110	121	99	6,840
80	70	70	62	60	61	75	65	78	61	64	57	79	3,867
89	92	34	38	37	35	21	20	23	9	17	12	15	5,756
21	21	14	10	13	10	15	15	11	13	14	12	12	836
1	1						1	1	1			1	21
22	10	15	9	14	16	14	14	18	11	18	13	12	875
2,293	2,333	1,817	1,744	1,990	1,780	2,190	2,197	2,609	2,757	2,837	3,020	2,858	137,687
							1	1		1		1	18
		1	1	2	1			1	2	1	2		31
5	2	2	7	3	4	4	5	3	7	2	6	8	129
									1				1
									1				382
5	2	3	8	5	5	4	6	5	11	4	8	9	561

2019年 感染症別・週別定点あたり報告状況（大阪府内集計）

		1月					2月				3月			
		1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
定点数	インフルエンザ	302	302	302	302	302	302	302	302	302	303	303	304	304
	小児科	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199	199
	眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
	基幹	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
	インフルエンザ	14.67	36.88	46.38	47.99	34.63	21.56	9.28	6.49	4.57	3.18	1.84	1.66	1.15
	RSウイルス感染症	0.40	0.59	0.62	0.67	0.58	0.68	0.79	0.86	0.99	1.13	1.15	1.24	1.17
	咽頭結膜熱	0.19	0.50	0.35	0.30	0.33	0.43	0.43	0.38	0.48	0.36	0.48	0.47	0.49
	A群溶血性レンガ球菌咽頭炎	0.66	1.83	1.91	2.25	2.25	2.30	1.78	2.56	2.76	2.94	2.69	2.31	2.16
	感染性胃腸炎	2.55	7.16	6.82	7.49	7.20	6.43	5.91	7.06	6.60	7.06	7.06	6.18	5.59
	水痘	0.37	0.57	0.27	0.34	0.31	0.37	0.21	0.26	0.35	0.27	0.36	0.26	0.31
	手足口病	0.10	0.16	0.11	0.11	0.12	0.16	0.20	0.16	0.18	0.33	0.28	0.25	0.43
	伝染性紅斑	0.16	0.56	0.56	0.53	0.48	0.34	0.31	0.42	0.43	0.42	0.40	0.51	0.50
	突発性発しん	0.09	0.31	0.31	0.30	0.30	0.23	0.30	0.33	0.31	0.30	0.38	0.29	0.41
	ヘルパンギーナ	0.02	0.03	0.03	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02	0.02	0.03	0.06	0.04	0.05
	流行性耳下腺炎	0.04	0.06	0.15	0.12	0.04	0.08	0.06	0.06	0.07	0.11	0.07	0.09	0.08
	急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00
	流行性角結膜炎	0.13	0.58	0.37	0.29	0.38	0.13	0.35	0.06	0.15	0.23	0.29	0.27	0.33
	細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.18	0.00	0.06	0.00	0.06	0.06	0.12	0.06	0.00	0.00	0.06
	無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	マイコプラズマ肺炎	0.06	0.24	0.12	0.24	0.06	0.06	0.24	0.06	0.18	0.12	0.18	0.18	0.18
	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.12	0.12	0.47	0.65	0.53	0.59	1.06	0.82	1.29	1.53	1.18	2.00	1.59

		7月					8月				9月			
		27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
定点数	インフルエンザ	300	301	301	301	301	301	301	301	301	300	300	300	300
	小児科	197	197	197	197	197	197	197	197	197	196	196	196	196
	眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
	基幹	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
	インフルエンザ	0.07	0.04	0.09	0.05	0.06	0.08	0.05	0.05	0.08	0.27	0.35	0.39	0.30
	RSウイルス感染症	0.36	0.60	0.71	0.77	1.14	1.57	1.05	1.24	2.37	3.58	4.55	4.26	3.85
	咽頭結膜熱	0.65	0.70	0.55	0.68	0.65	0.63	0.37	0.47	0.57	0.60	0.61	0.32	0.29
	A群溶血性レンガ球菌咽頭炎	2.35	2.35	1.80	1.78	1.41	1.65	0.64	1.03	1.50	1.41	1.93	1.43	1.44
	感染性胃腸炎	4.69	4.45	3.80	4.17	3.57	4.05	1.67	3.55	4.01	3.86	3.93	3.51	2.86
	水痘	0.26	0.35	0.29	0.30	0.36	0.20	0.20	0.21	0.21	0.21	0.32	0.27	0.29
	手足口病	8.78	8.64	6.02	4.57	3.45	2.36	0.99	1.10	1.45	1.57	1.33	1.22	0.85
	伝染性紅斑	1.30	1.12	1.29	1.08	0.97	0.92	0.24	0.65	0.79	1.03	0.82	0.50	0.61
	突発性発しん	0.46	0.43	0.40	0.43	0.46	0.48	0.18	0.49	0.51	0.49	0.38	0.37	0.31
	ヘルパンギーナ	2.20	2.27	1.89	1.92	1.71	1.48	0.59	0.76	0.96	1.26	1.04	0.67	0.57
	流行性耳下腺炎	0.16	0.12	0.06	0.07	0.06	0.06	0.07	0.12	0.09	0.08	0.08	0.13	0.09
	急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00
	流行性角結膜炎	0.54	0.37	0.37	0.48	0.56	0.50	0.21	0.67	0.54	0.54	0.38	0.38	0.44
	細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	無菌性髄膜炎	0.00	0.19	0.13	0.00	0.06	0.00	0.06	0.13	0.13	0.06	0.06	0.00	0.06
	マイコプラズマ肺炎	0.00	0.06	0.00	0.00	0.19	0.13	0.50	0.38	0.13	0.25	0.13	0.13	0.25
	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.06	0.06	0.00	0.00

I 5 類定点把握感染症（性感染症を除く）

4月					5月				6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
303	301	301	301	301	301	301	300	300	300	300	300	300
198	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
0.95	1.09	2.14	2.53	0.88	0.64	0.71	0.69	0.64	0.43	0.32	0.11	0.12
1.02	1.18	1.31	1.02	0.47	0.44	0.32	0.36	0.37	0.22	0.27	0.21	0.21
0.43	0.51	0.55	0.75	0.21	0.67	0.53	0.76	0.61	0.78	0.77	0.73	0.68
1.87	2.40	2.86	2.91	0.64	2.27	3.08	3.03	3.37	3.32	2.86	2.59	2.39
5.36	7.11	8.41	8.63	2.39	5.31	6.72	6.91	6.79	6.43	5.61	5.51	4.61
0.29	0.24	0.23	0.31	0.23	0.36	0.22	0.31	0.25	0.27	0.30	0.27	0.32
0.43	0.82	1.24	1.85	0.84	1.05	2.55	3.92	4.72	7.16	10.05	9.15	9.04
0.52	0.60	0.80	0.73	0.15	0.66	0.85	0.76	0.65	0.86	0.95	1.18	1.22
0.40	0.48	0.43	0.64	0.18	0.47	0.43	0.49	0.51	0.44	0.49	0.44	0.48
0.06	0.10	0.12	0.14	0.12	0.18	0.32	0.57	0.71	1.33	2.02	1.78	1.89
0.06	0.04	0.08	0.10	0.03	0.12	0.09	0.12	0.12	0.08	0.18	0.05	0.09
0.00	0.02	0.00	0.06	0.00	0.02	0.06	0.02	0.02	0.00	0.04	0.00	0.00
0.37	0.25	0.17	0.31	0.04	0.25	0.23	0.46	0.31	0.37	0.29	0.42	0.25
0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00
0.06	0.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.06
0.06	0.06	0.00	0.06	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
1.00	1.13	1.50	2.13	0.81	1.13	0.88	0.44	0.63	0.63	0.25	0.19	0.19

10月					11月				12月				平均
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週	
300	300	300	301	301	301	301	301	301	301	301	301	300	301
196	196	196	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197	197
52	52	52	52	51	51	51	51	51	51	51	51	51	52
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
0.31	0.22	0.23	0.26	0.38	0.46	0.84	1.21	1.99	3.89	8.31	13.69	17.73	5.63
3.56	3.58	2.37	1.95	1.59	1.17	0.78	0.59	0.66	0.70	0.62	0.75	0.72	1.22
0.35	0.35	0.33	0.37	0.35	0.34	0.38	0.45	0.48	0.69	0.61	0.57	0.69	0.50
1.49	1.81	1.52	1.43	2.04	1.81	2.54	2.50	3.00	3.21	3.51	3.47	3.02	2.19
3.31	3.37	3.06	2.95	3.74	3.64	5.25	5.49	6.83	7.39	7.70	8.51	8.10	5.39
0.30	0.23	0.14	0.32	0.25	0.36	0.47	0.46	0.61	0.43	0.46	0.51	0.49	0.31
0.84	0.91	0.76	0.63	0.78	0.55	0.49	0.48	0.45	0.46	0.36	0.43	0.39	2.02
0.78	0.66	0.43	0.60	0.73	0.55	0.58	0.60	0.55	0.64	0.56	0.61	0.50	0.67
0.41	0.36	0.36	0.31	0.30	0.31	0.38	0.33	0.40	0.31	0.32	0.29	0.40	0.38
0.45	0.47	0.17	0.19	0.19	0.18	0.11	0.10	0.12	0.05	0.09	0.06	0.08	0.56
0.11	0.11	0.07	0.05	0.07	0.05	0.08	0.08	0.06	0.07	0.07	0.06	0.06	0.08
0.02	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.02	0.02	0.00	0.00	0.02	0.01
0.42	0.19	0.29	0.17	0.27	0.31	0.27	0.27	0.35	0.22	0.35	0.25	0.24	0.32
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.06	0.00	0.06	0.00	0.06	0.02
0.00	0.00	0.06	0.06	0.13	0.06	0.00	0.00	0.06	0.13	0.06	0.13	0.00	0.04
0.31	0.13	0.13	0.44	0.19	0.25	0.25	0.31	0.19	0.44	0.13	0.38	0.50	0.15
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.44

2019年 感染症別・ブロック別報告状況（大阪府内集計）

ブロック名	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	合計	
	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市 北部	大阪市 西部	大阪市 東部	大阪市 南部		
定点数	*1 インフルエンザ	1,768	1,343	2,184	1,604	1,248	1,508	1,729	1,012	763	1,144	1,355	15,658
	*2 小児科	1,144	884	1,404	1,040	832	988	1,053	700	503	780	936	10,264
	*3 眼科	260	208	312	260	208	260	312	260	104	303	208	2,695
	*4 基幹	104	104	104	104	52	104	65	52	52	52	52	845
疾病名													
*1	インフルエンザ	8,932	5,322	12,732	7,323	8,875	9,767	9,222	7,132	7,542	4,776	6,766	88,389
*2	RSウイルス感染症	825	525	2,129	1,116	1,636	1,134	934	1,593	836	744	1,006	12,478
	咽頭結膜熱	349	422	925	764	597	424	556	239	154	257	480	5,167
	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	1,622	1,128	3,974	2,556	3,223	2,617	2,258	1,039	1,014	856	2,226	22,513
	感染性胃腸炎	5,813	3,846	8,446	6,830	7,573	3,017	5,782	4,284	2,888	2,112	4,783	55,374
	水痘	456	225	524	412	275	211	326	294	164	169	171	3,227
	手足口病	1,893	1,319	3,353	2,314	2,839	1,571	1,881	1,835	933	936	1,859	20,733
	伝染性紅斑	674	305	1,465	781	661	641	911	458	183	289	472	6,840
	突発性発しん	420	214	681	554	434	214	411	309	169	163	298	3,867
	ヘルパンギーナ	569	372	1,036	518	478	495	490	769	311	208	510	5,756
	流行性耳下腺炎	55	68	157	140	89	60	66	69	54	45	33	836
*3	急性出血性結膜炎	1	1	8	0	2	2	5	1	1	0	0	21
	流行性角結膜炎	67	70	82	104	109	96	132	59	43	65	48	875
	合計	12,744	8,495	22,780	16,089	17,916	10,482	13,752	10,949	6,750	5,844	11,886	137,687
*4	細菌性髄膜炎	2	7			1		8					18
	無菌性髄膜炎	7	1		2		20	1					31
	マイコプラズマ肺炎	6	24	30	13	2	31	10			13		129
	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	1											1
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	52	48	9	20	49	55	85	17		47		382
	合計 {細菌性髄膜炎 -感染性胃腸炎(ロタウイルス)}	68	80	39	35	52	106	104	17	0	60	0	561
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	103	47	30	27	361	28	47	59	18		75	795
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	12	11			31	16	11					81
	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	1	1		1			2				6
	合計 (メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 -薬剤耐性緑膿菌感染症)	116	59	31	27	393	44	58	61	18	0	75	882

- *1 インフルエンザ定点把握疾患
- *2 小児科定点把握疾患
- *3 眼科定点把握疾患
- *4 基幹定点把握疾患

2019年 感染症別・年齢別報告状況（大阪府内集計）

疾病名	年齢区分														合計				
	6ヶ月未満	12ヶ月未満	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳から14歳	15歳から19歳	20歳から29歳		30歳から39歳	40歳から49歳	50歳から59歳	60歳から
*1 インフルエンザ	474	1,402	4,396	4,575	5,077	5,794	5,952	5,796	5,540	4,933	4,336	14,237	3,783	22,094				88,389	
RSウイルス感染症	1,879	2,487	4,337	2,092	1,043	383	145	49	14	9	5	20	3	12				12,478	
咽頭結膜熱	31	375	1,407	918	822	595	393	244	125	80	49	68	12	48				5,167	
A群溶血性W球菌咽頭炎	27	123	900	1,544	2,473	3,097	3,092	2,789	2,177	1,678	1,224	2,357	201	831				22,513	
感染性胃腸炎	665	3,806	8,716	6,533	5,562	5,271	4,327	3,447	2,679	2,178	1,843	4,634	1,062	4,651				55,374	
水痘	25	95	218	168	217	342	354	386	369	354	230	410	14	45				3,227	
手足口病	217	2,169	7,380	4,363	2,451	1,627	954	516	314	165	116	270	34	157				20,733	
伝染性紅斑	4	47	276	459	804	1,095	1,218	947	704	489	338	369	11	79				6,840	
突発性発しん	61	1,230	1,994	409	111	37	14	4	5		1		1					3,867	
ヘルパンギーナ	45	646	1,682	1,154	774	490	344	208	120	67	42	78	4	102				5,756	
流行性耳下腺炎	5	4	18	42	75	112	124	112	76	81	67	89	14	17				836	
*3 急性出血性結膜炎												3	1	17				21	
流行性角結膜炎	2	5	40	41	24	20	28	24	10	11	5	28	27	610				875	
合計	2,961	10,987	26,968	17,723	14,356	13,069	10,993	8,726	6,593	5,112	3,920	8,326	1,384	6,569				###	
*4 細菌性髄膜炎		1		2	3		2	1		1	1		1	1	2		1	2	18
無菌性髄膜炎	2		1	2			1	2				2	2	4	8	2	4	1	31
マイコプラズマ肺炎	2	1	2	4	4	3	9	9	9	24	7	31	8	6	5	4		1	129
クラミジア肺炎（オウム病を除く）											1								1
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	20	27	55	58	50	48	30	32	23	14	4	16	1		1			3	382
合計 〔細菌性髄膜炎 - 感染性胃腸炎(ロタウイルス)〕	24	29	58	66	57	51	42	44	32	39	13	49	12	11	16	6	5	7	561
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	26	5	10	5	5	5	6	5	4	4	2	8	7	22	16	31	68	566	795
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2	8	18	5	9	3		2	1		1	1	1			3		27	81
薬剤耐性緑膿菌感染症													1					5	6
合計 〔メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 - 薬剤耐性緑膿菌感染症〕	28	13	28	10	14	8	6	7	5	4	3	9	9	22	16	34	68	598	882

*1 インフルエンザ定点把握疾患

*2 小児科定点把握疾患

*3 眼科定点把握疾患

*4 基幹定点把握疾患

2. 各感染症状況報告

1) インフルエンザ定点把握疾患

●インフルエンザ

2019年のインフルエンザの患者発生は、第35週までは2018/2019シーズンを、第36週以降は2019/2020シーズンが反映されている。令和元年の大阪府でのインフルエンザ定点からの累積報告数は88,386（定点当たり累積報告数：293.64）であり、定点当たり累積報告数は全国平均値（379.73）よりも低く、また前年（2018年）の累積患者報告数98,141（（定点当たり累積報告数：322.83）よりも減少した。もっとも、2018年の報告数は、例年と比べてかなり大きな流行となった2017/2018シーズンの流行状況が反映されたものであり、令和元年の患者報告数が例年と比べて少ないというものではない。2019年中に大阪府のインフルエンザ定点当たり報告数が警報レベルである30.00を上回ったのは全国平均と同様に2019年第2週、第3週、第4週、第5週の4週間であり、2018年と同様であった。流行のピークは全国平均と同じで2019年第4週（定点当たり報告数：大阪府47.99、全国平均57.18）であった。第17週と第21～24週を除くと、全国平均値が大阪府の定点当たり報告数を上回っていた（図）。

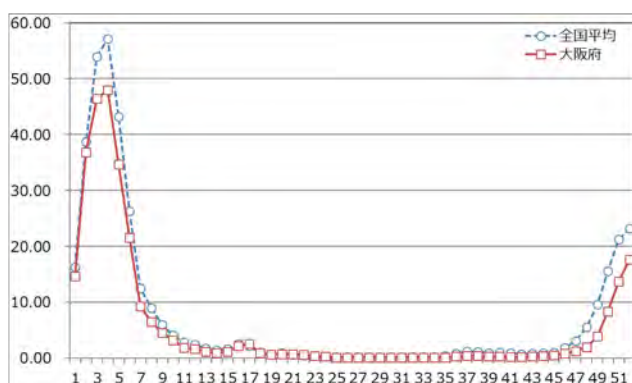


図 2019年のインフルエンザ定点あたり報告数週別推移 (全国平均、大阪府)

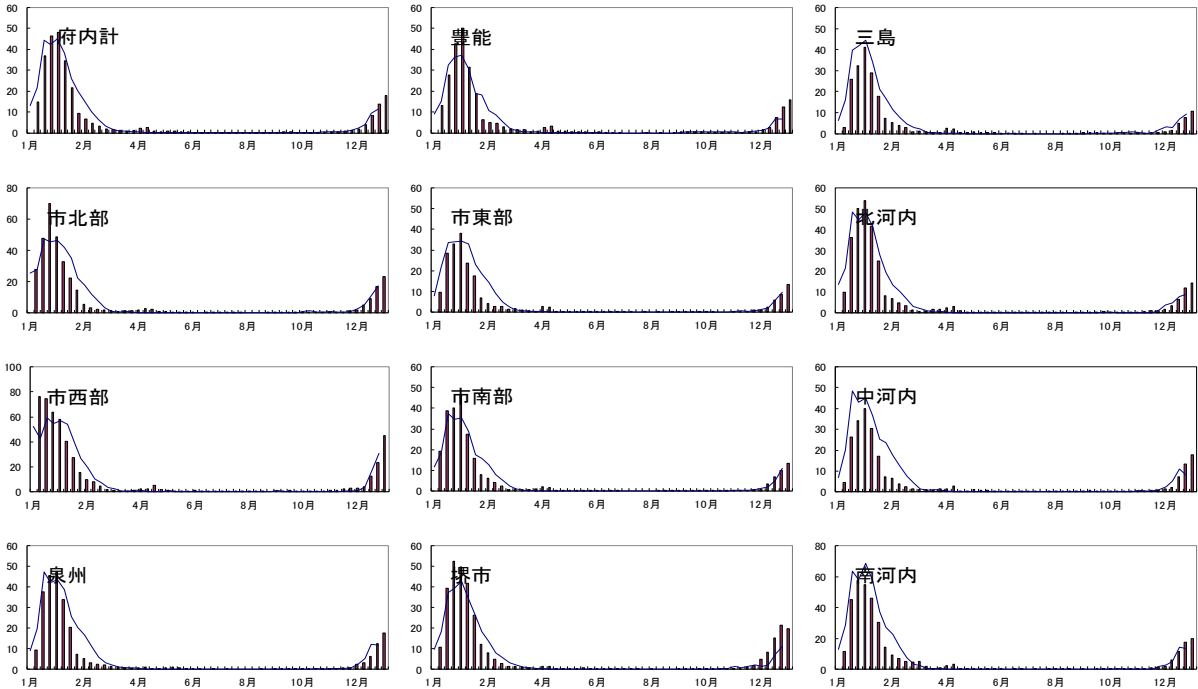
2018/2019シーズンのインフルエンザウイルス株の検出状況を見ると

(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html>)、大阪府では同シーズン期間中に検出された334株中AH1pdm09 165株(49.4%)、AH3亜型 143株(42.8%)、B型 26株(7.8%; B型の内訳はビクトリア系統 22株 6.6%、山形系統 4株 1.2%)の順であった。同シーズンの全国でのインフルエンザウイルス株の検出状況(総検出数 8,180)をみると、AH3亜型 4,605株(56.4%)、AH1pdm09 2,993株(36.6%)、B型 582株(7.1%; B型の内訳はビクトリア系統 525株 6.4%、山形系統 46株 0.6%)の順となっていた。2018/2019シーズンはAH3亜型、AH1pdm09の2種類のA型インフルエンザウイルスの混合流行とよく、流行の前半はAH1pdm09が、後半はAH3亜型の流行の方が優勢であった。全国ではAH3亜型の検出数がAH1pdm09を上回ったが、大阪府ではAH1pdm09の方が多く検出されていた。大半の都道府県ではAH3亜型の検出数の方が多かったが、隣県である奈良県、和歌山県は大阪府と同様であり、地域的な流行が反映されていたと思われる。

一方、2019/2020シーズンは2020年第28週までの大阪府内の状況を見ると、総検出数 244株中AH1pdm09は190株(77.9%)、B型 44株(18.0%; ビクトリア系統 44株 18.0%、山形系統 0株 0.0%)、AH3亜型 10株(4.1%)の順となっているのは全国の検出状況(総検出数 5,750株; AH1pdm09 86.3%、B型 11.6%、AH3亜型 2.1%)と同様であり、AH1pdm09が流行の中心となっている。(文責：安井)

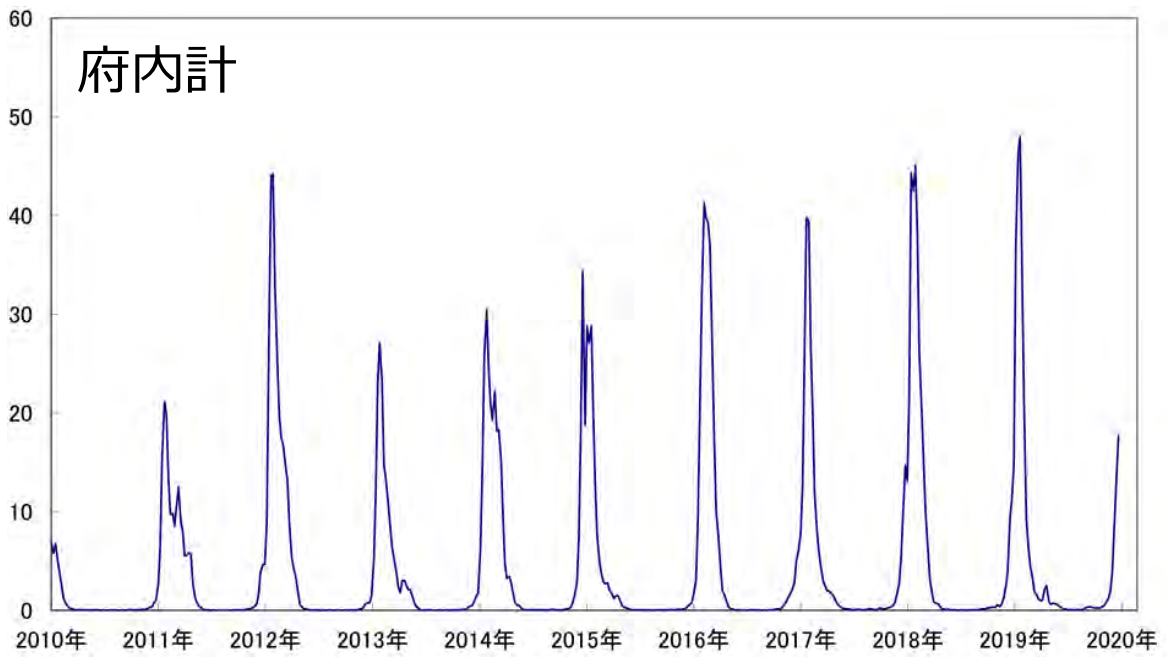
インフルエンザ

線(2018年第1週～第52週)
棒(2019年第1週～第52週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線(2010年1週～2019年52週)



定点あたりインフルエンザ報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

2) 小児科定点把握疾患

●RS ウイルス感染症

2019 年の RS ウイルス感染症の患者報告数は 12,487 例で、前年比 22.6%増、小児科・眼科定点把握疾患総報告数の 9.1%を占めた。定点当たり報告数の年平均は 1.22 で、順位は第 4 位であった。

全国集計においては 140,091 例の報告で、前年比 16.0%増、小児科・眼科定点把握疾患総報告数の 6.5%を占めた。定点当たり報告数の年平均は 0.85 で、順位は第 4 位であった。

週別（月別）の定点当たりの報告数は、第 1 週（1 月）の 0.40 に始まり、その後増加して第 10 週（3 月）から第 17 週（4 月）まで 1.00 を超えた。その後減少して第 25 週（6 月）および第 26 週（6 月）に年間最低の 0.21 となった。第 27 週（7 月）からは漸増し、年間最高値は、第 37 週（9 月）の 4.55 であった。

全国集計の同報告数は、第 1 週（1 月）の 0.30 に始まり、その後漸増して 16 週（4 月）に 0.58 となった。その後減少し、第 23 週（6 月）に年間最低の 0.21 となった。その後第 24 週（6 月）から漸増し、第 30 週（7 月）に 1.00 を超えた。年間最高値は、第 37 週（9 月）の 3.45 であった。

年齢別患者発生数は、1 歳児の 4,337 例が最も多く、以下 12 か月未満児の 2,487 例、2 歳児の 2,092 例、6 ヶ月未満児の 1,879 例で、0 歳児から 2 歳児で全体の 86.5%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位 5 ブロックは、北河内（2129 例）、南河内（1636 例）、大阪市北部（1593 例）、堺市（1134 例）、中河内（1116 例）であった。

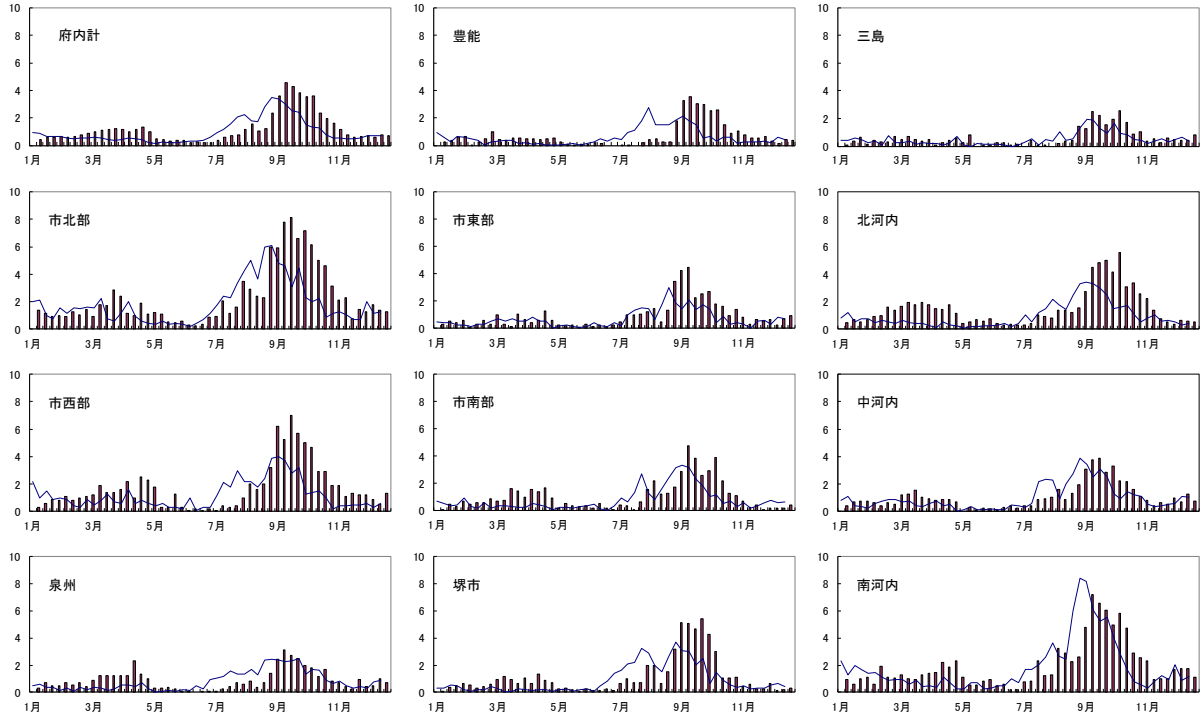
ブロック別定点あたり年間平均報告数の上位 5 ブロックは、大阪市北部（2.30）、南河内（1.97）、大阪市西部（1.71）、北河内（1.52）、堺市（1.15）であった。

病原体定点医療機関からの検体数は 206 で、そのうち 167 検体（81.1%）からウイルスが検出され、RSA が 83 例、RSB が 23 例、RS 未型別が 1 例で、その他に検出数が多いウイルスは、ヒトメタニューモウイルスが 30 例、パレコウイルスが 25 例、ライノウイルスが 19 例であった（重複例を含む）。

（文責：廣井）

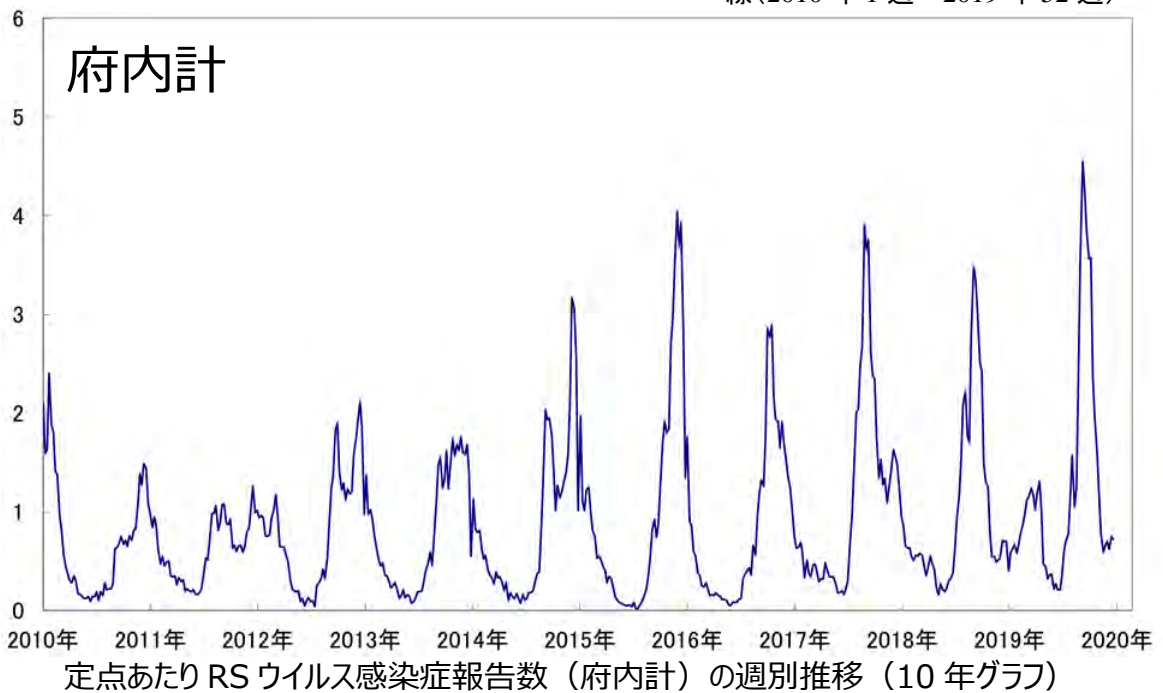
RS ウイルス感染症

線(2018年第1週～第52週)
棒(2019年第1週～第52週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線(2010年1週～2019年52週)



●咽頭結膜熱

2019年の咽頭結膜熱の患者報告数は5,167例で、前年比1.3%減、小児科・眼科定点把握疾患総報告数の3.8%を占めた。定点当たり報告数の年平均は0.50で、順位は第7位であった。

全国集計においては75,448例の報告で、前年比2.0%増、小児科・眼科定点把握疾患総報告数の3.5%を占めた。定点当たり報告数の年平均は0.46で、順位は第7位であった。

週別（月別）の定点当たりの報告数は、第1週（1月）の0.19に始まり、その後増加して、第19週（5月）から第32週（8月）まで連続して0.50を超えた。その後減少して第39週（9月）に0.29となった。第46週（11月）からは漸増し、第49週から第52週まで連続して0.50を超えた。年間最高値は、第23週（6月）の0.78であった。

全国集計の同報告数は、第1週（1月）の0.24に始まり、その後増加して、第21週（5月）から第28週（7月）まで連続して0.50を超えた。その後減少し、第42週（10月）に0.34となった。第46週（11月）から増加し、第52週（12月）まで連続して0.50を超えた。年間最高値は、第50週（12月）の0.80であった。

年齢別患者発生数は、1歳児の1,407例が最も多く、以下2歳児の918例、3歳児の822例、4歳児の595例、5歳児の393例で、0歳児から5歳児で全体の87.9%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位5ブロックは、北河内（925例）、中河内（764例）、南河内（597例）、泉州（556例）、大阪市南部（480例）であった。

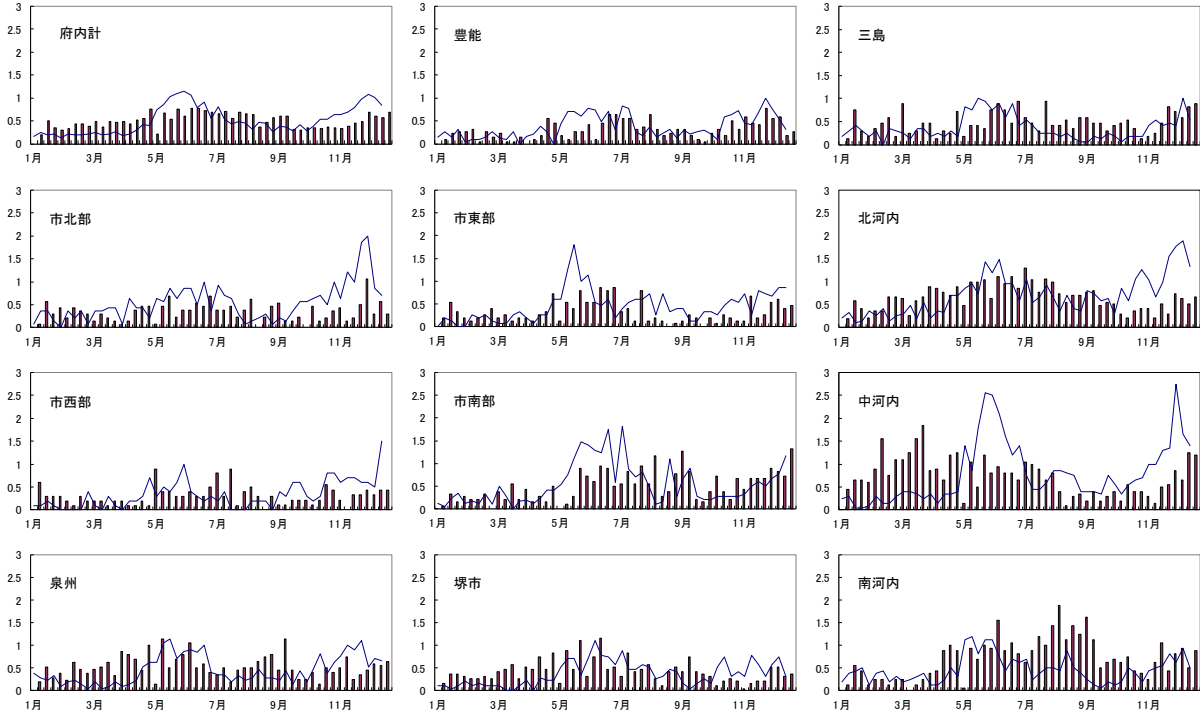
ブロック別定点あたり年間平均報告数の上位5ブロックは、中河内（0.73）、南河内（0.72）、北河内（0.66）、泉州（0.53）、大阪市南部（0.51）であった。

病原体定点医療機関からの検体数は45で、そのうち32検体（71.1%）からウイルスが検出された。内訳はアデノウイルス1型が6例、2型が7例、3型が6例、5型が1例で、その他複数例検出されているウイルスは、RSAが4例、RSBが3例、インフルエンザウイルスAH1pdmが3例、ライノウイルスが2例、単純ヘルペスウイルス1型が2例であった（重複例を含む）。

（文責：廣井）

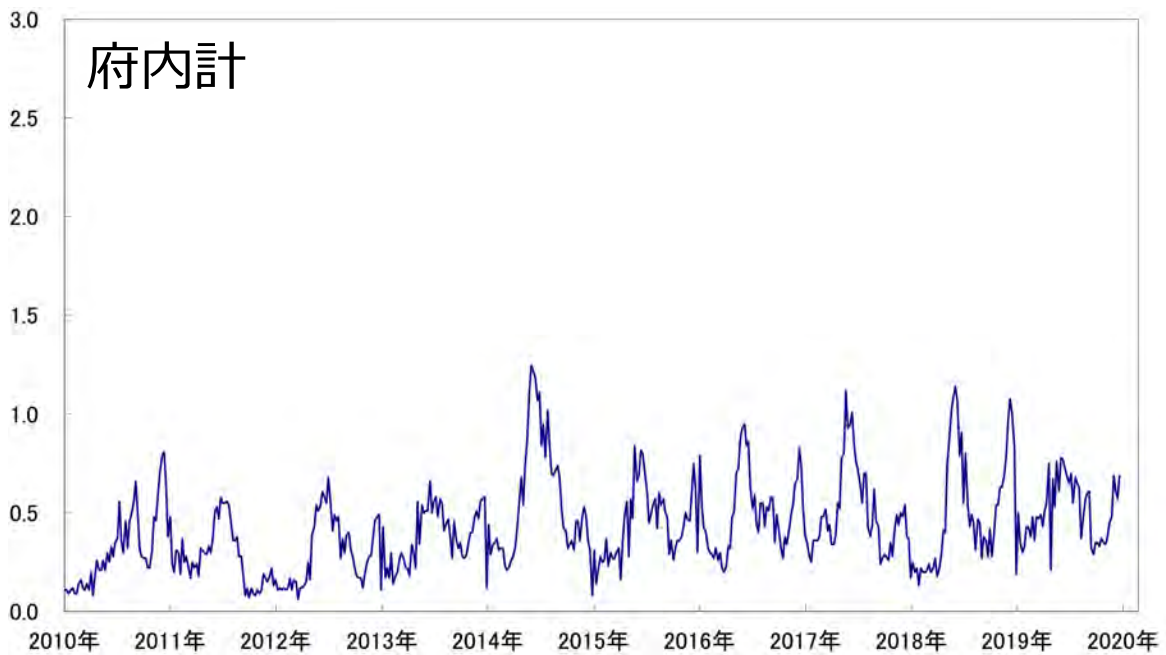
咽頭結膜熱

線(2018年第1週～第52週)
棒(2019年第1週～第52週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線(2010年1週～2019年52週)



定点あたり咽頭結膜熱報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2019 年の A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数は 22,513 例で、前年比 5.7%増、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 16.4%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 2.19 で、順位は第 2 位であった。

全国集計では 355,086 例の報告で、前年比 0.9%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 16.5%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 2.16 で、順位は第 3 位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数の推移では、第 1 週（1 月）、第 18 週（4 月）および第 33 週（8 月）を除いて通年 1 以上で、第 20 週（5 月）から第 23 週（6 月）にかけてと第 48 週（11 月）から第 52 週（12 月）にかけて 3 を超えており、年間最高値は第 50 週（12 月）の 3.51 であった。5 月から 6 月にかけてと 11 月から 12 月にかけての 2 つのピークが認められた。

全国集計では、第 1 週（1 月）、第 18 週（4 月）および第 33 週（8 月）を除いて通年 1 以上で、第 48 週（11 月）から第 52 週（12 月）にかけて 3 を超えており、年間最高値は第 51 週（12 月）の 3.72 であった。今年は初夏のピークは認められず、11 月から 12 月にかけてピークが認められた。

年齢別患者報告数は、4 歳の 3,097 例が最も多く、以下 5 歳 3,092 例、6 歳 2,789 例、3 歳 2,473 例と続き、3 歳から 6 歳で全体の 50.9%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位 5 ブロックは、③北河内（3,974 例）、⑤南河内（3,223 例）、⑥堺市（2,617 例）、④中河内（2,556 例）、⑦泉州（2,258 例）の順であった。

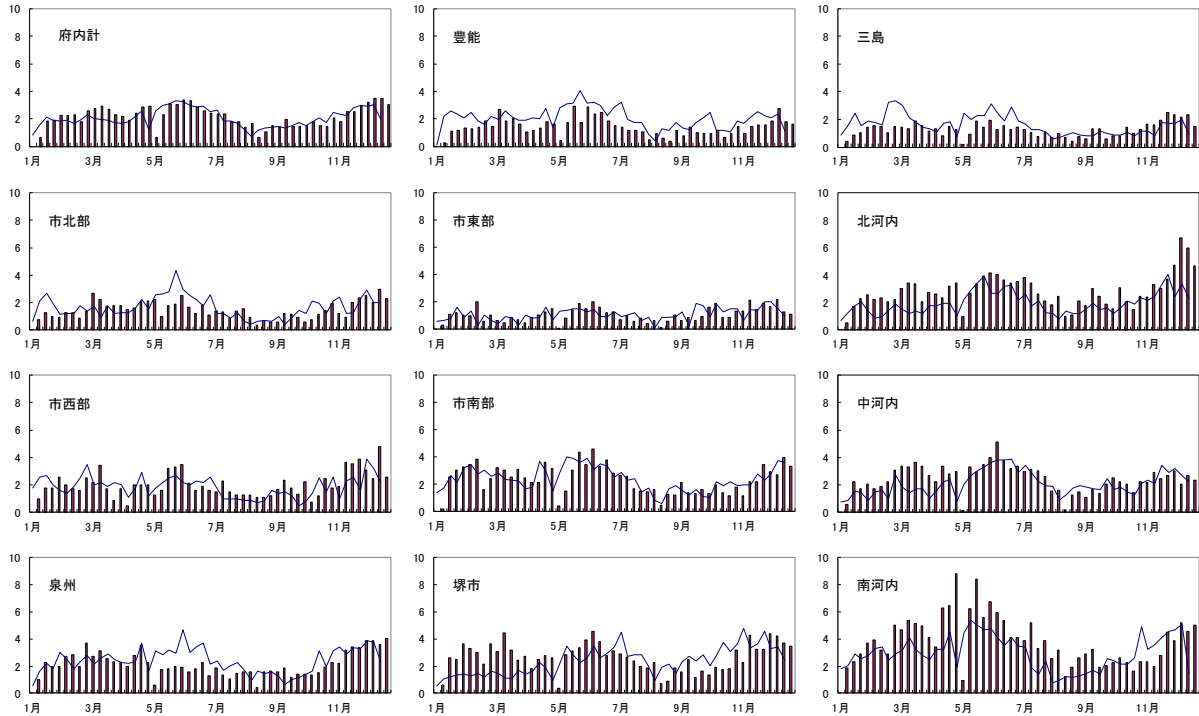
ブロック別定点あたりの年平均報告数の上位 5 ブロックは、⑤南河内（3.87）、③北河内（2.83）、⑥堺市（2.65）、④中河内（2.46）、⑪大阪市南部（2.38）の順であった。

ブロック別・週別定点あたりの報告数の上位 5 ブロックは、⑤南河内（第 17 週、8.81）、⑤南河内（第 20 週、8.38）、⑤南河内（第 22 週、6.75）、③北河内（第 50 週、6.70）、⑤南河内（第 16 週、6.44）の順であった。

（文責：富吉）

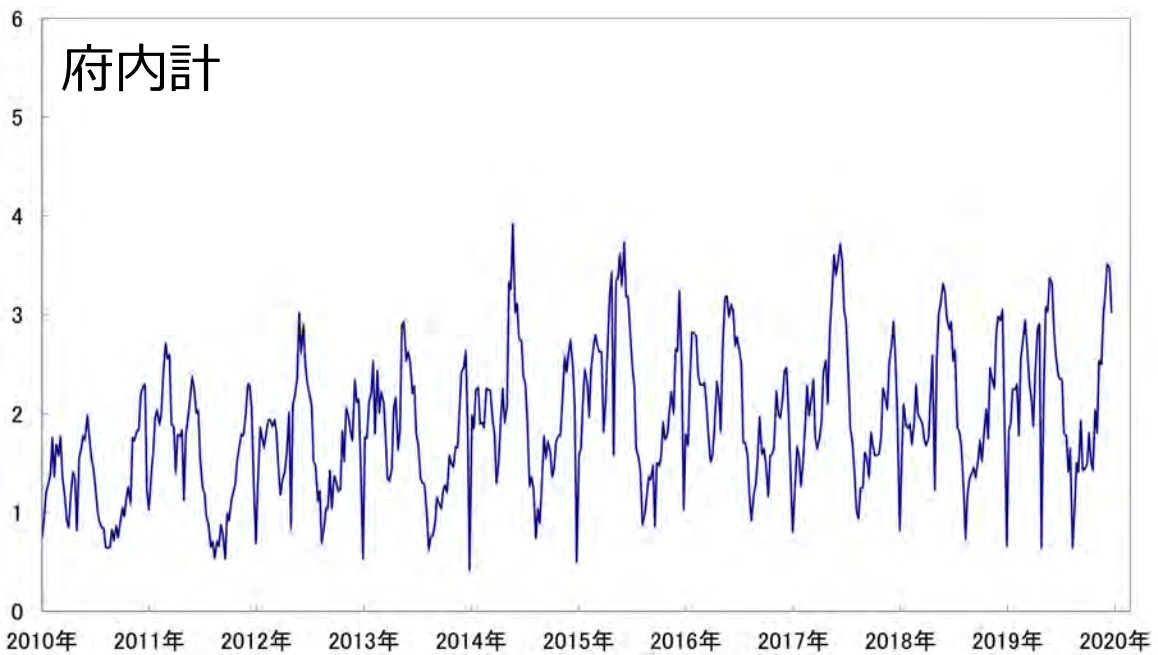
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

線(2018年第1週～第52週)
棒(2019年第1週～第52週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線(2010年1週～2019年52週)



定点あたりA 群溶血性レンサ球菌咽頭炎報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●感染性胃腸炎

2019年の感染性胃腸炎の報告数は55,374例で、前年より154例、0.3%増加した。小児科・眼科定点報告対象12疾患総報告数の40.2%を占め、第1位であった。定点あたり報告数の年平均は5.39で、前年5.35より0.7%の増加であり、過去10年でみると最低値であった2017年5.16、2018年5.35に次いで3番目に低値であった。全国集計では報告数809,145例で、前年より4.8%減少し、総報告数の37.7%を占めた。定点あたり報告数は年平均4.92と前年5.18より5.0%減少し、過去10年でみると最低値であった。

定点あたり報告数を週別にみると、第1週2.55から増減を繰り返しながら増加し、第17週に年間最高値8.63に達した。一旦減少した後第21週6.91まで増加し、その後は減少に転じて、第33週に年間最低値である1.67になった。第34週から第44週まで2.86~4.01の間で増減しながら推移し、第45週3.64から急激に増加し第51週に8.51に達した。全国集計では、第2週7.54から第13週5.18まで減少した後増加し、第17週に年間最高値8.24に達した。その後徐々に減少し、第33週に年間最低値である1.91となった。第34週から第44週まで2.74~3.39の間で推移し、第45週3.15から増加傾向となり第51週に7.46となった。

定点あたり報告数の月別平均値は、12月、2月、3月、5月、4月、1月の順で高かった。春から初夏に二峰性のピークを作り、夏から秋にかけて低値をとり、晩秋に再び増加し、冬にピークを持つ流行曲線は例年と同様であった。

ブロック別定点あたり報告数のピーク値が警報開始基準値20.0を超えたブロックは無かった。ブロック別定点あたり報告数の年平均は、⑤南河内9.10、④中河内6.57、⑧大阪市北部6.10、③北河内6.02、⑨大阪市西部5.77、⑦泉州5.46、⑪大阪市南部5.11、①豊能5.08、②三島4.35、⑥堺市3.05、⑩大阪市東部2.71の順であった。

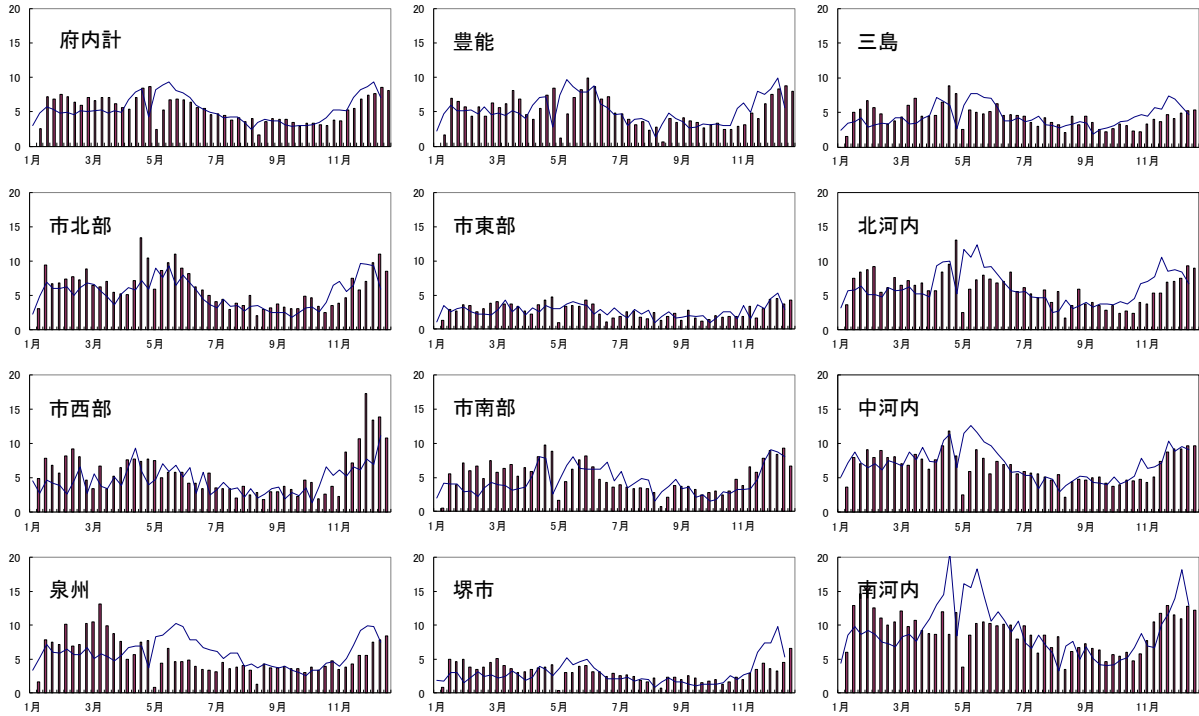
年齢別報告数(0~9歳)は、1歳、2歳、3歳、4歳、0歳、5歳、6歳、7歳、8歳、9歳の順に多かった。0~4歳の報告数は30,553例で全体の55.2%を占めた。5~9歳が14,474例(26.1%)、10~14歳が4,634例(8.4%)、15歳以上が5,713例(10.3%)で、各年齢の全体に占める割合は例年とほぼ同じであった。

ウイルス検出は289検体のうち陽性だったのは187検体で、陽性率64.7%であった。病原体別でみると、ロタウイルス77件(陽性検体の41.2%、うちロタウイルスAG9が46件)、ノロウイルス66件(陽性検体の35.3%、うちノロウイルスGII.4が29件)、アデノウイルスが19件(陽性検体の10.2%)、サポウイルス14件(陽性検体の7.5%)、アストロウイルス8件(陽性検体の4.3%)等であった。

(文責：吉田)

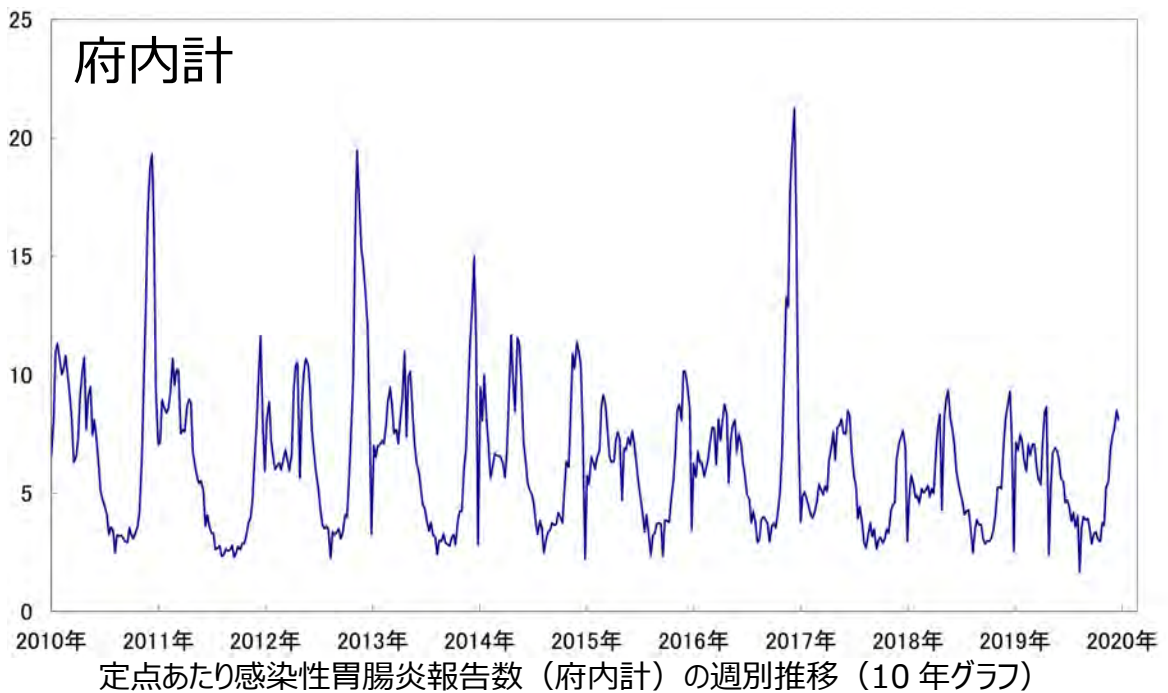
感染性胃腸炎

線(2018年第1週～第52週)
棒(2019年第1週～第52週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線(2010年1週～2019年52週)



●水痘

2019年の水痘の報告数は3,227例で、前年3,919例より692例、17.7%減少した。小児科・眼科定点報告対象12疾患総報告数の2.3%を占め、第9位であった。2008年～2010年は第2～3位であったが、2011年～2014年は第3～4位、2015年は第5位であり、2016年以降は8～9位と年々減少している。定点あたり報告数の年平均は0.31で、前年0.38より18.4%減少した。全国集計では報告数56,798例で前年55,480例より1,318例、2.3%増加した。総報告数の2.6%を占め、定点あたり報告数は年平均0.35と前年0.34より2.9%増加した。

定点あたり報告数を週別にみると、第2週0.57から第3週0.27まで減少し、その後は0.20～0.37の間で小刻みな増減を繰り返しながら推移し、第42週に年間最低値である0.14になった後急増し、第48週に年間最高値である0.61に達した。全国集計では、第1週0.43、第2週0.55から第5週に0.25まで減少した後、増減を繰り返しながら増加し、第19週に0.49となった。その後は小刻みに増減しながら減少し、第35週に年間最低値である0.16となった後、再び増加傾向となり、第50週に年間最高値である0.67に達した。

定点あたり報告数の月別平均値は、11月、12月、1月、7月、3月、2月、6月、5月、9月、4月、10月、8月の順で高かった。冬と春に二峰性のピークを作り、夏から秋にかけて低値をとる流行曲線は例年通りであった。定点あたり報告数の年平均および年間最高値は、いずれも前年よりも低値であり、感染症法が施行され現在の感染症発生動向調査事業の体制となった1999年以降の21年間で最も低値であった。

ブロック別定点あたり報告数の年平均は、⑧大阪市北部0.42、①豊能および④中河内0.40、③北河内0.37、⑤南河内および⑨大阪市西部0.33、⑦泉州0.31、②三島0.25、⑩大阪市東部0.22、⑥堺市0.21、⑪大阪市南部0.18の順であった。

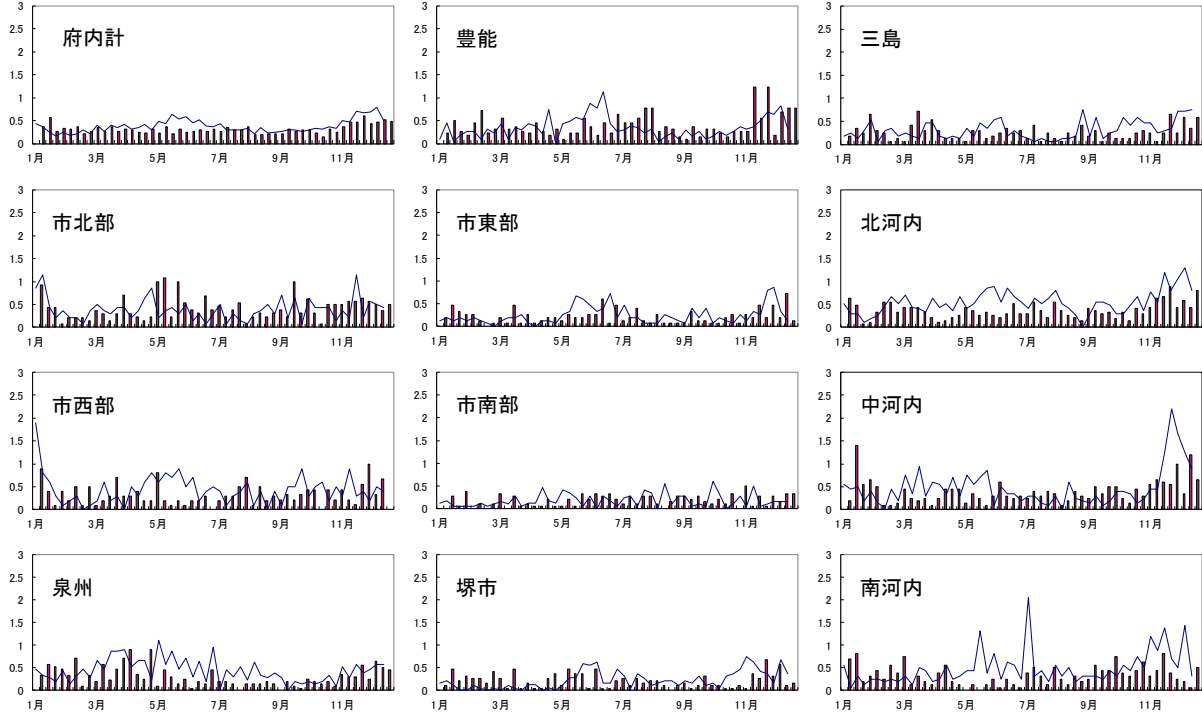
年齢別報告数(0～9歳)は、6歳、7歳、5歳および8歳、4歳、9歳、1歳、3歳、2歳、0歳の順に多かった。0～4歳の報告数および全体に占める割合は、2014年(6,691例、68.4%)、2015年(3,179例、57.4%)、2016年(2,044例、48.0%)、2017年(1,706例、42.3%)、2018年(1,346例、34.3%)、2019年(1,065例、33.0%)であり、2014年10月に水痘ワクチンが小児の定期接種に導入されて以降、報告数・割合とも大幅に減少している。5～9歳の報告数は1,693例(前年2,112例)で全体の52.5%(前年53.9%)と減少に転じた。10～14歳の報告数は410例(前年397例)で全体の12.7%(前年10.1%)であり、前年より増加し、経年的にみても増加傾向であった。15歳以上は59例(1.8%)であり、前年1.6%とほぼ同じ割合であった。

咽頭拭い液5検体中4件から水痘帯状疱疹ウイルスが検出された。

(文責：吉田)

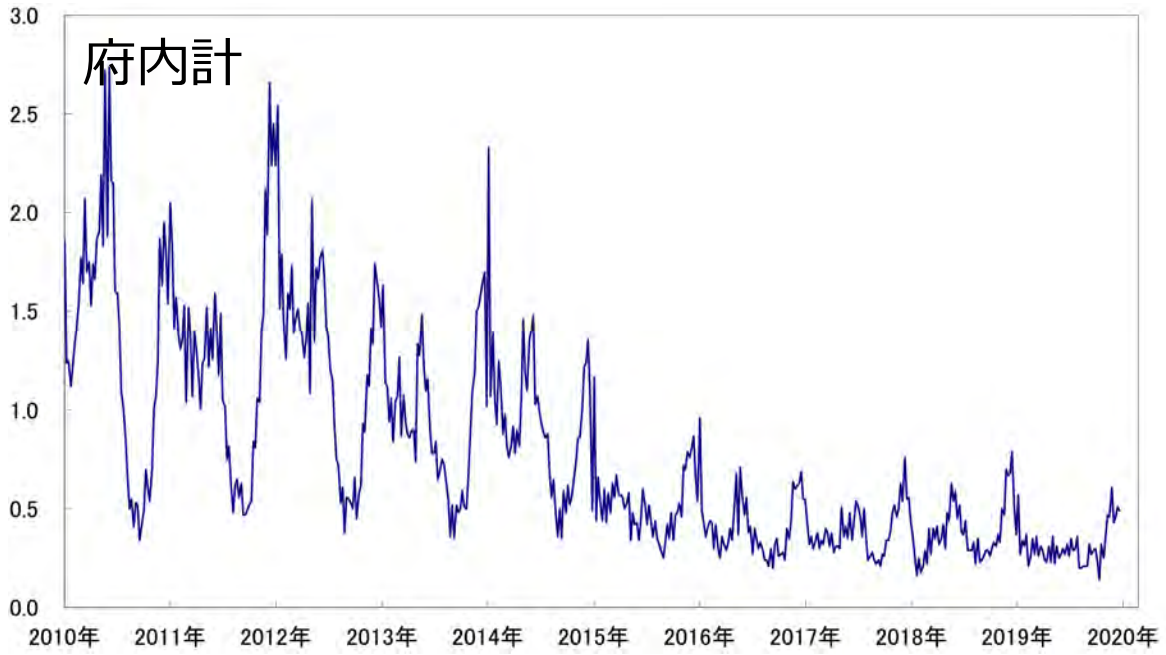
水痘

線(2018年第1週～第52週)
棒(2019年第1週～第52週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線(2010年1週～2019年52週)



定点あたり水痘報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●手足口病

手足口病（hand, foot, and mouth disease : HFMD）は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス性感染症であり、乳幼児を中心に主に夏季に流行する疾患である。日本国内では主に春から夏にかけて流行する感染症であり、例年 7 月の中旬か下旬が流行のピークとなり、8 月以降患者発生数は減少していく、という経過を辿っている。主な病原ウイルスは、以前はコクサッキーA16（CA16）、エンテロウイルス 71（EV71）であるとされてきたが、2009 年頃よりコクサッキーA6（CA6）を原因ウイルスとする手足口病が目立つようになり、それにともなって CA6 の検出割合が増加してきている。

手足口病に特徴的な発疹は口腔粘膜、従来は手掌、足底や足背などの四肢末端に出現する 2～3 mm の水疱性発疹とされてきたが、CA6 を原因ウイルスとする手足口病の場合の発疹は 5mm 前後と水痘を想起させるほどに大きく、上腿、殿部、上腕部、頸部等広範囲にみられることも少なくない。また、これまでの手足口病とは異なり、39℃以上の高熱をきたすこともしばしば認められている。

令和元年（2019 年）の大阪府の小児科定点医療機関からの手足口病の累積報告数は 2,7033（定点当たり累積報告数 105.24；以上暫定値）であり、前年 2018 年の累積報告数 4,981（定点当たり累積報告数 25.16）よりも大幅に増加した。また、定点当たり累積報告数は 2019 年の全国平均値 105.24 よりも低い値であった。

2019 年の手足口病の報告数のピークは、大阪府は第 24 週（定点当たり報告数 10.05）であり、全国平均のピーク値（第 30 週、定点当たり報告数 13.44）よりは低かったものの、前年（2018 年）の大阪府のピーク値（2018 年第 31 週、定点当たり報告数 1.44）よりも大きく増加していた（多年推移図）。

大阪府が上記の流行のピークを迎えた第 24 週のブロック別の定点当たり報告数をみると、南河内 20.38、大阪市北部 13.08、泉州 12.90、中河内 11.25、堺市 10.90 の順であった。

2019 年に全国で手足口病と診断された患者由来検体から検出されたウイルス株数（暫定値）は全国で 1,675 であり、CA6 56.8%、CA16 19.8%、CA10 1.0%、EV71 0.5%の順となっている。一方、2019 年に大阪府内で検出されたウイルス株数は 68 であり、CA6 69.1%、EV71 8.8%、CA10 1.5%の順となっている（右図）。

CA6 が流行の中心となる年は手足口病の患者数が増加して大きな流行となっており、2011 年以降 CA6 の流行年は 1 年おきに現れていて、多年推移図に示す通り 2011 年以降は 1 年おきに患者発生数も増減を繰り返している。2019 年は CA6 が流行の中心であり、全国、大阪府ともに患者発生数は前年よりも大幅な増加が見られた。

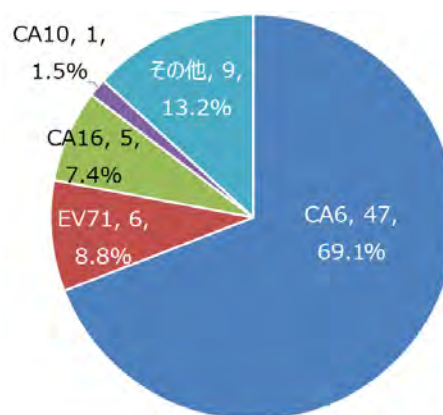
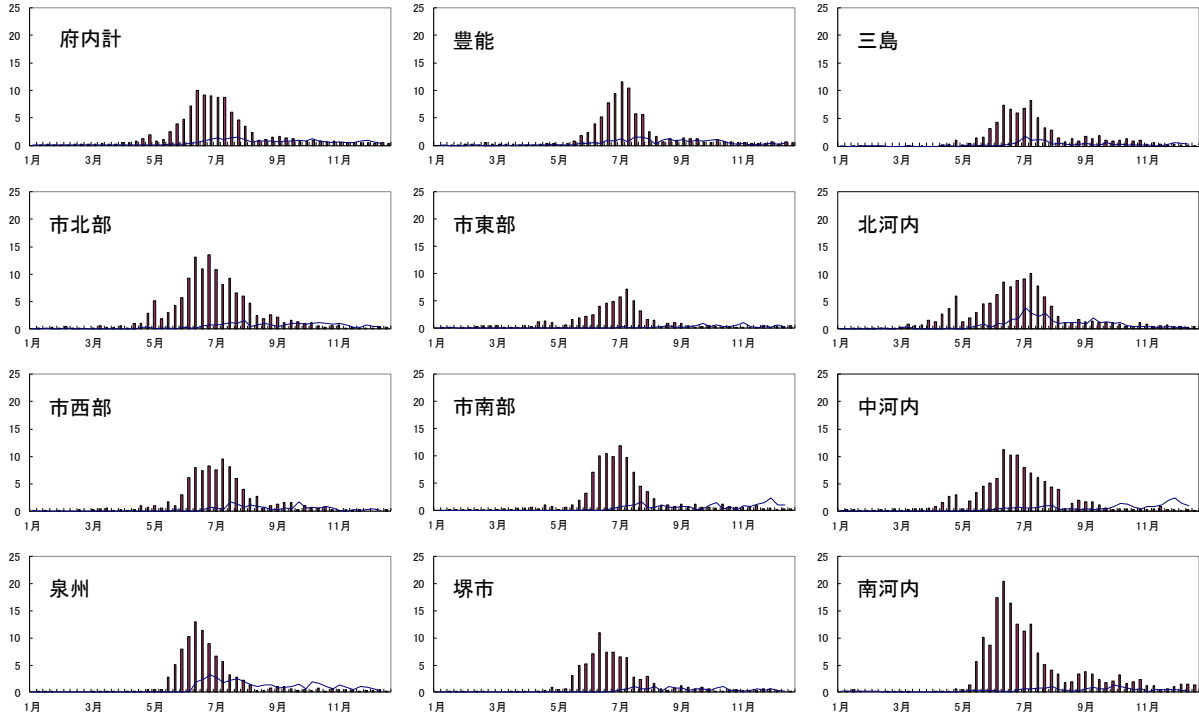


図 大阪府の手足口病患者由来ウイルスの検出状況（2019年、総検出数68）

（文責：安井）

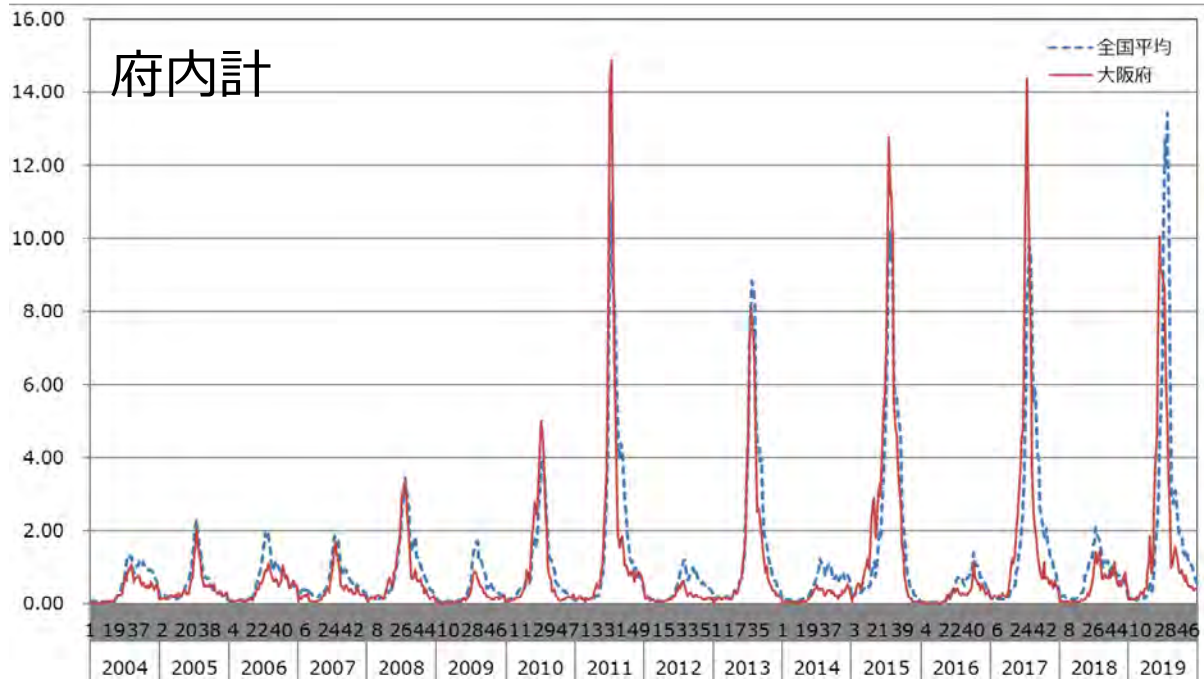
手足口病

線(2018年第1週～第52週)
棒(2019年第1週～第52週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

(2004年1週～2019年52週)



2004年～2019年定点あたり手足口病報告数（全国平均、府内計）の週別推移

●伝染性紅斑

2019年の伝染性紅斑の報告数は6,840例で、前年の1,648例より5,192例、315.0%増加した。小児科・眼科定点報告対象13疾患総報告数の5.0%を占め、第5位であった。定点あたり報告数の年平均は0.67で、前年0.16より318.8%の増加であった。全国集計では報告数108,223例で前年49,174例より120.1%増加し、総報告数の5.0%を占めた。定点あたり報告数は年平均0.66と前年0.30より120.0%増加した。

定点あたり報告数を週別にみると、第1週0.16から第2週、第3週の0.56まで増加した後減少し第7週0.31となった。その後再び増加傾向となり、第16週0.80まで増加した。第18週のみ年間最小値である0.15となったが第19週は0.66に増加し、以後増減を繰り返しながら増加し、第27週に年間最高値である1.30に達した。以後は増減を繰り返しながら減少傾向となり、第52週に0.50となった。全国集計では、第1週0.38から第2週に年間最高値である1.00に急増した後減少傾向となり第7週0.50となった。その後は第15週0.59まで横ばいで推移し第16週0.83まで増加した。第18週のみ年間最小値である0.23まで減少したが、その後再び増加し第25週0.93に達した。その後第30週0.88までほぼ横ばいで推移した後、増減を繰り返しながら減少し第52週0.58となった。

定点あたり報告数の月別平均値は、7月、6月、9月、5月、8月、10月、12月、11月、4月、1月および3月、2月の順で多かった。春から夏にかけて増加する流行曲線は例年と同じ傾向で、夏頃にピークを迎えたが、本年は秋から冬にかけても夏より低いレベルではあるものの横ばいで推移する流行曲線を示した。

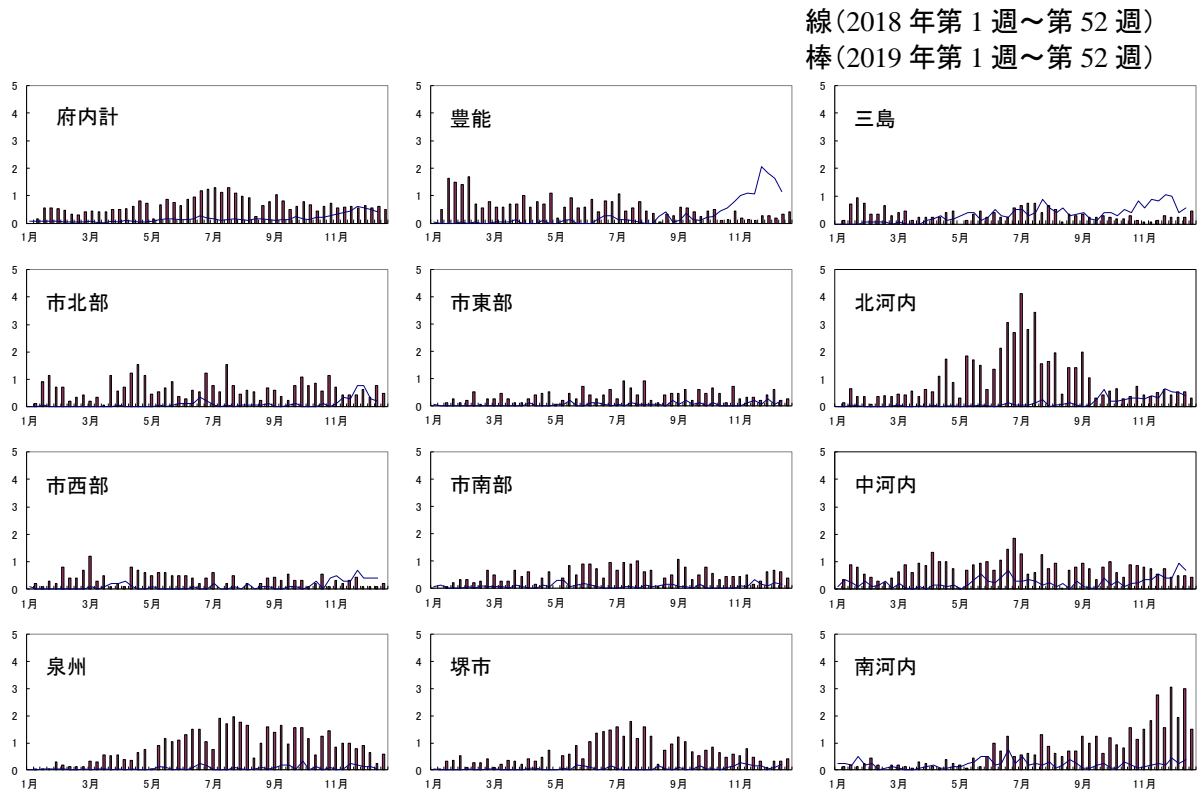
過去10年では、2011年、2015年、2019年とおおよそ4年毎に比較的大規模な流行がおこっている。2019年の年間最高値1.30は過去10年間でも最高値であった。大流行と大流行の間の時期は比較的小さな流行（年間最高値が0.50以下）に留まっている。

ブロック別定点あたり報告数の年平均は、③北河内1.04、⑦泉州0.87、⑤南河内0.79、④中河内0.75、⑧大阪市北部0.66、⑥堺市0.65、①豊能0.59、⑪大阪市南部0.50、⑩大阪市東部0.37、⑨大阪市西部0.36、②三島0.35の順であった。

年齢別報告数（0～9歳）は、5歳、4歳、6歳、3歳、7歳、8歳、2歳、9歳、1歳、0歳の順に多かった。5～9歳の報告数は3,696例で全体の54.0%を占めた。0～4歳、10～14歳、15歳以上の報告数と割合はそれぞれ2,685例（39.3%）、369例（5.4%）、90例（1.3%）であった。

（文責：吉田）

伝染性紅斑



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移



定点あたり伝染性紅斑報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●突発性発しん

2019年の突発性発しんの患者報告数は3,867例で、前年比13.7%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の2.8%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は0.38で、順位は第8位であった。

全国集計では64,519例の報告で、前年比9.4%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の3.0%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は0.39で、順位は第9位であった。

月別（週別）の定点あたりの報告数の推移では、1月（第1週～第5週）の平均は0.26で、その後漸増して、5月（第19週～第22週）の平均は0.48と最高となった。その後漸減し、12月（第49週～第52週）の平均は0.33であった。年間最低値は第1週（1月）の0.09、年間最高値は第17週（4月）の0.64であった。

全国集計では、1月（第1週～第5週）の平均は0.29で、その後漸増して、6月（第23週～第26週）の平均は0.51と最高となった。その後漸減し、12月（第49週～第52週）の平均は0.35であった。年間最低値は第1週（1月）の0.16、年間最高値は第17週（4月）の0.56であった。

本疾患は、季節性がなく、毎週の定点あたり報告数が一定しているといわれているが、春から夏にかけて多く、秋から冬にかけて少ない傾向がみられた。

年齢別患者報告数は、1歳の1,994例(51.6%)が最も多く、0歳が1,291例(33.4%)、2歳が409例(10.6%)であり、0歳と1歳で全体の84.9%、2歳を含めると95.5%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位5ブロックは、③北河内（681例）、④中河内（554例）、⑤南河内（434例）、①豊能（420例）、⑦泉州（411例）の順であった。

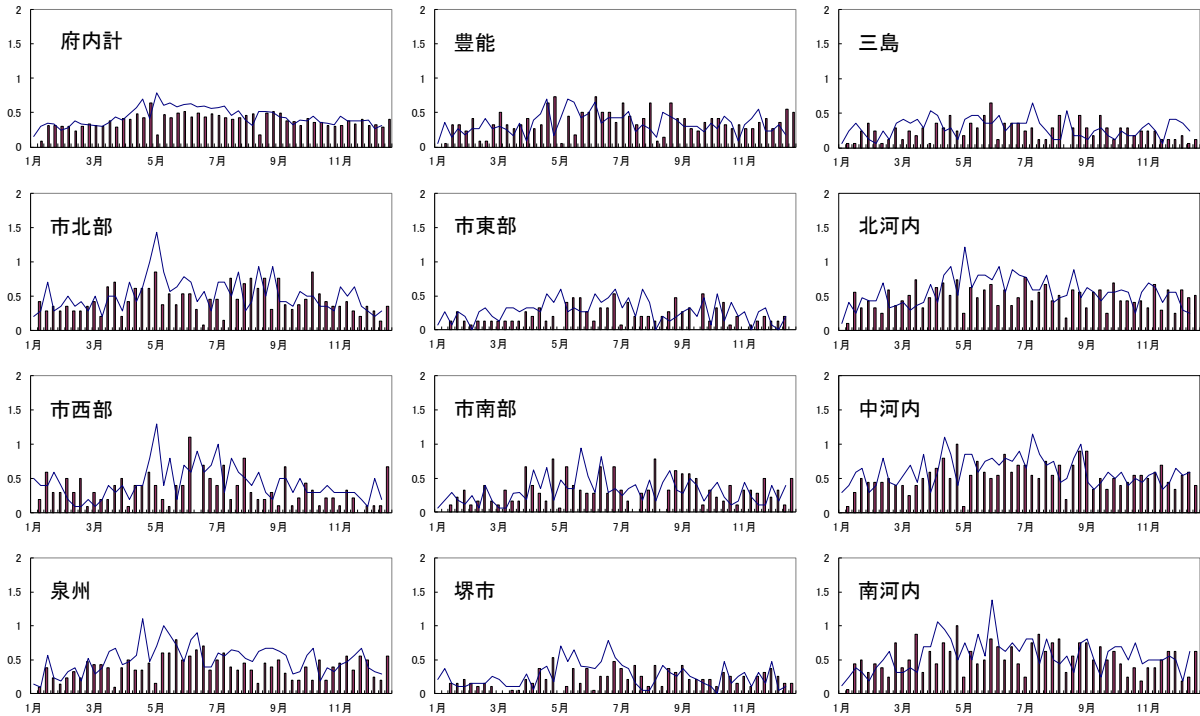
ブロック別定点あたりの年平均報告数の上位5ブロックは、④中河内(0.53)、⑤南河内(0.52)、③北河内(0.49)、⑧大阪市北部(0.44)、⑦泉州(0.39)の順、下位5ブロックは、⑩大阪市東部(0.21)、⑥堺市(0.22)、②三島(0.24)、⑪大阪市南部(0.32)⑨大阪市西部(0.33)の順で、本年も昨年と同様に最上位と最下位では約2倍以上の差があった。

本疾患の特性としてブロック間の差が比較的生じにくいと考えられているが、例年上位と下位では差があり、定点医療機関における受診患者年齢に偏りがないかなど検討が必要と考えられる。

（文責：富吉）

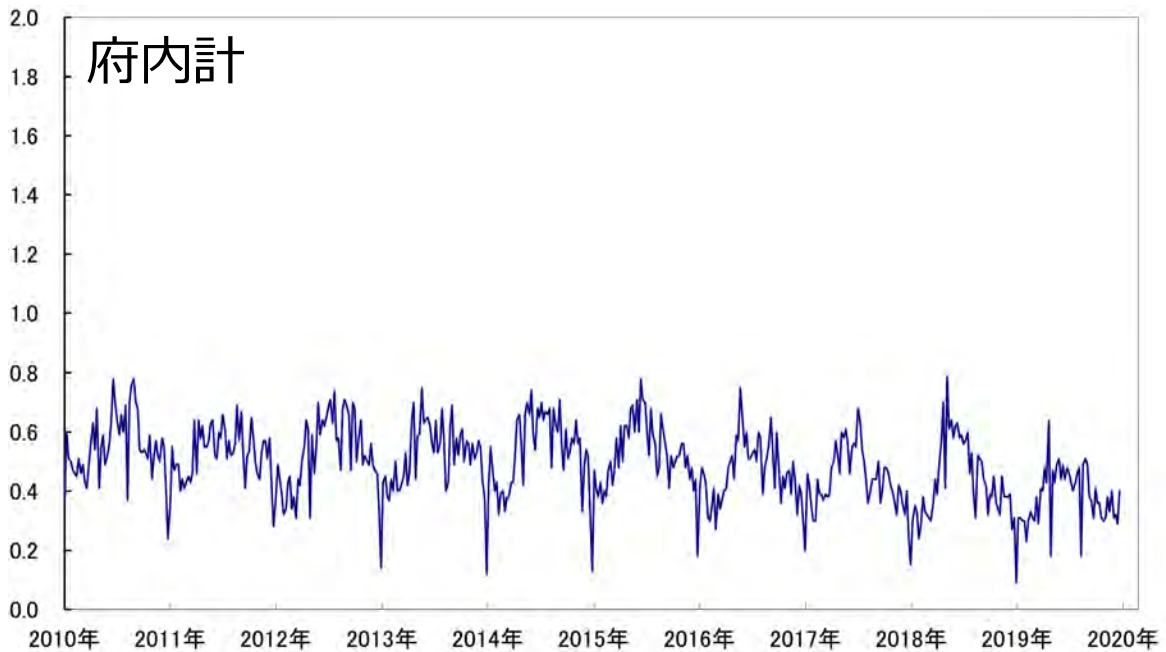
突発性発しん

線(2018年第1週～第52週)
棒(2019年第1週～第52週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線(2010年1週～2019年52週)



定点あたり突発性発しん報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●ヘルパンギーナ

本疾患について、定点あたり報告数が、7月末にピークを迎える夏型感染症である。大阪府では、2014年(9,704例)、2016年(8,563例)と隔年で流行し、2018年も流行することが見込まれていたが、2018年の報告数は5,293例で前年比6.6%増にとどまった。2019年は5,756例であった。

2019年と2018年の患者報告数の比較では、2019年の報告数は前年比8.7%増の5,756例で、小児科定点総報告数の4.2%を占めた。大阪府における小児科定点あたり報告数の年平均は0.56で、順位は6位であった。日本全国における小児科定点あたり報告数の年平均は0.59で、順位は6位である。

週別(月別)の定点あたり報告数の推移では、第1週から第14週まで0.01~0.06で推移していたが、昨年よりも早く4月(第15週)に0.10となり増加に転じていた。第28週(7月)に、2.27となり最大値に到達した。その後、第33週(8月)には1.00を下まわり、昨年が第38週(9月)まで、1.0を超えて推移したのに比べると、比較的早い収束となった。

全国的には、第20週(5月)に0.19となり増加が始まり、第25週(6月)に1.00を超えて、第30週(7月)に最大値2.98となっている。その後、減少し、第38週(9月)に1.00を下回り、減少傾向となった。

年齢別患者発生数では、1歳 1,682例(29.2%)、2歳 1,154例(20.0%)、3歳 774例(13.4%)、0歳 691例(12.0%)、4歳 490例(8.5%)の順で、0~4歳で全体の83.2%を占めた。

ブロック別患者発生数では、定点あたりのブロック別年平均報告数の上位5ブロックは、⑧大阪市北部 1.13、③北河内 0.74、⑨大阪市西部 0.61、⑤南河内 0.57、⑪大阪市南部 0.54、の順であった。ブロック別・週別定点あたり報告数の上位5ブロックは、⑧大阪市北部 4.31(第28・29週 7月)、⑪大阪市南部 3.39(第26週 6月)、⑤南河内 3.25(第24週 6月)、③北河内 3.22(第27週 7月)、⑥堺市 3.05(第24週 6月)の順で、警報レベル開始基準値6.00を上回ったブロックはなかった。

病原体検出の陽性率は65.7%であった。コクサッキーウイルスA6型(11)、ヒトメタニューモウイルス(8)、RSウイルスA型(8)、パラインフルエンザウイルス3型(7)、その他29株が検出された。

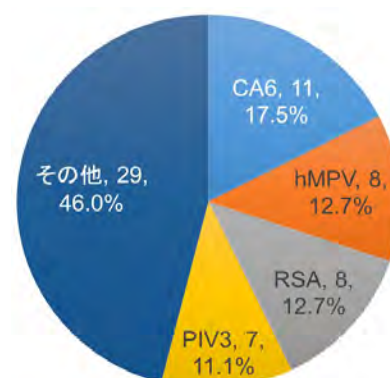
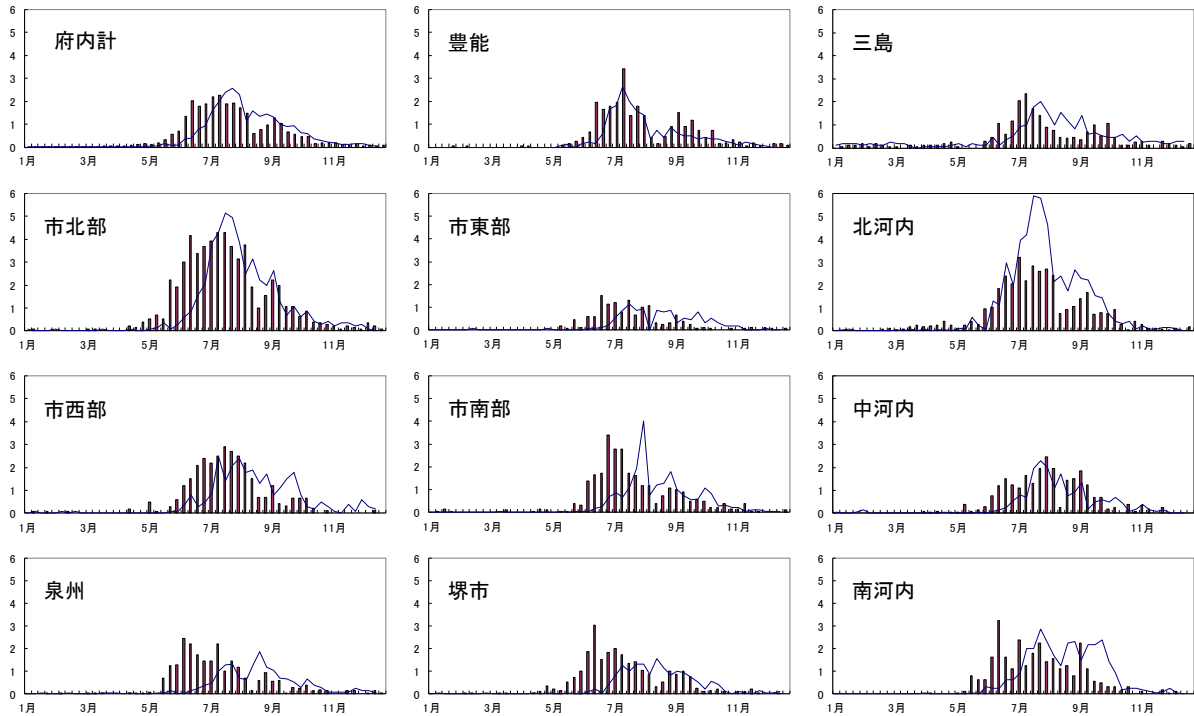


図 大阪府のヘルパンギーナ患者由来ウイルスの検出状況(2019年、総検出数52)

(文責: 本村)

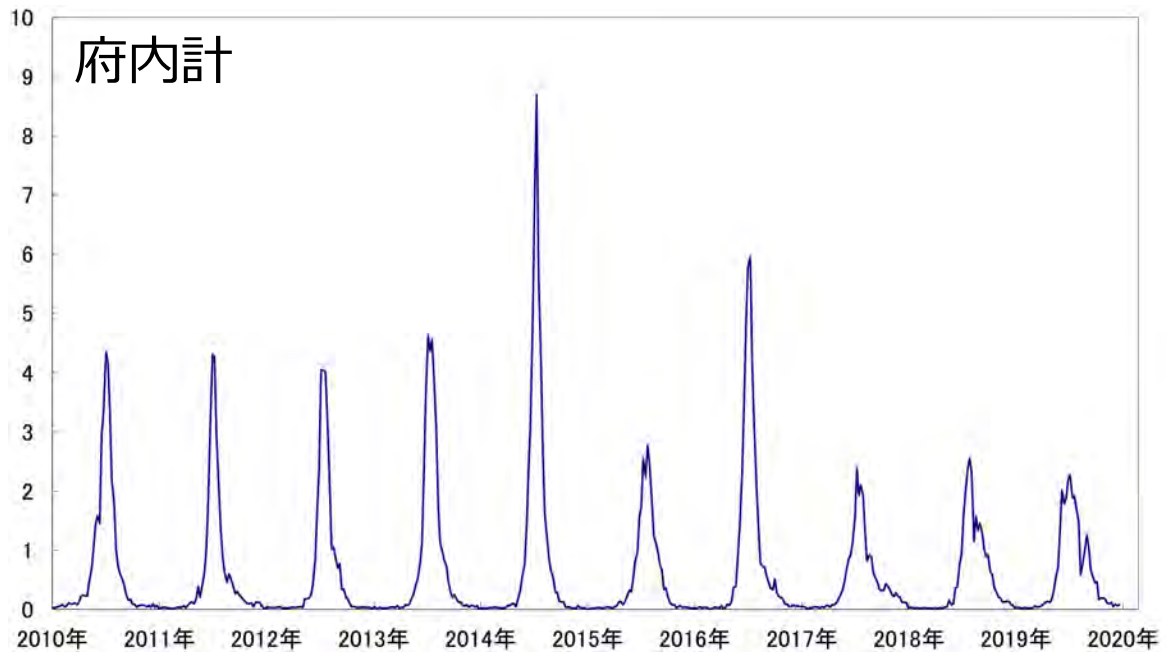
ヘルパンギーナ

線(2018年第1週～第52週)
棒(2019年第1週～第52週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線(2010年1週～2019年52週)



定点あたりヘルパンギーナ報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●流行性耳下腺炎

2019 年の流行性耳下腺炎の患者報告数は 836 例で、前年比 33.2%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 0.6%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.08 で、順位は第 11 位であった。過去 10 年間で最も大きな流行となった 2016（平成 28）年から 3 年連続して減少した。

全国集計では 15,152 例の報告で、前年比 27.7%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の 0.7%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は 0.09 で、順位は第 11 位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数の推移では、年間を通じて流行はみられず、年間最高値は第 24 週（6 月）の 0.18、年間最低値は第 18 週（4 月）の 0.03 であった。

全国集計でも、年間を通じて流行はみられず、年間最高値は第 26 週（6 月）の 0.15、年間最低値は第 18 週（4 月）の 0.05 であった。

年齢別患者報告数は、5 歳の 124 例が最も多く、以下 4 歳、6 歳ともに 112 例、10 歳から 14 歳 89 例、8 歳 81 例、7 歳 76 例、3 歳 75 例と続き、3 歳から 6 歳で全体の 50.6%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位 5 ブロックは、③北河内（157 例）、④中河内（140 例）、⑤南河内（89 例）、⑧大阪市北部（69 例）、②三島（68 例）の順であった。

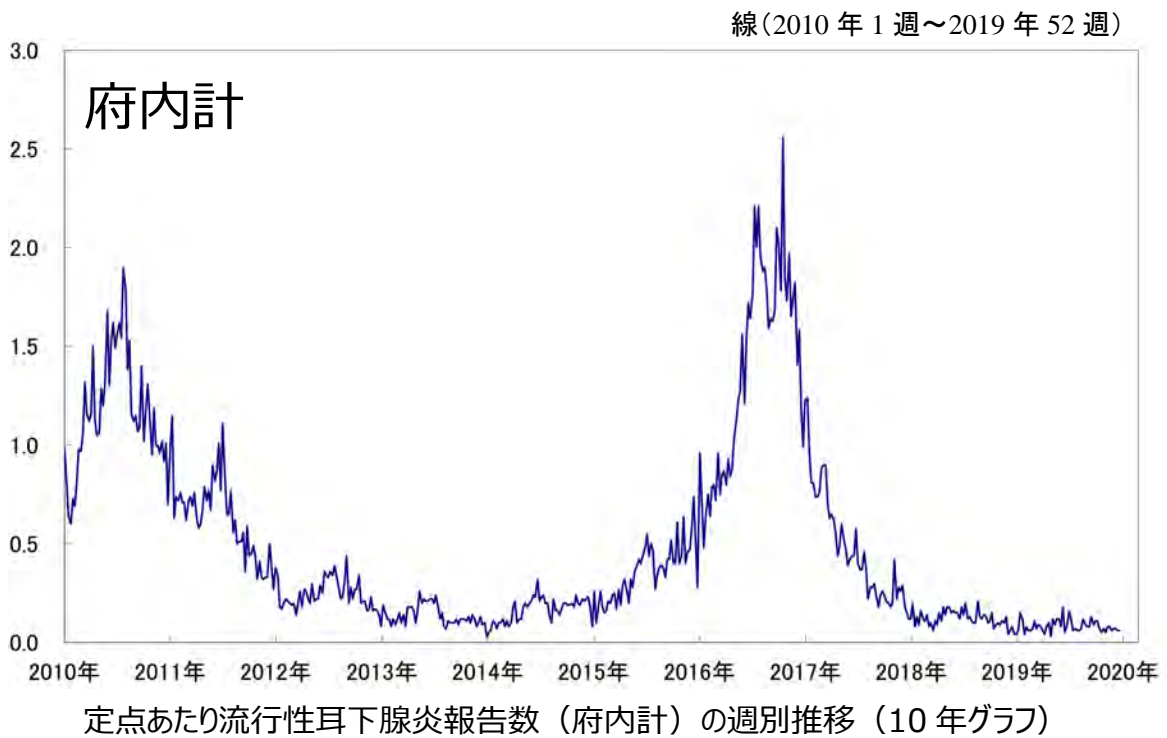
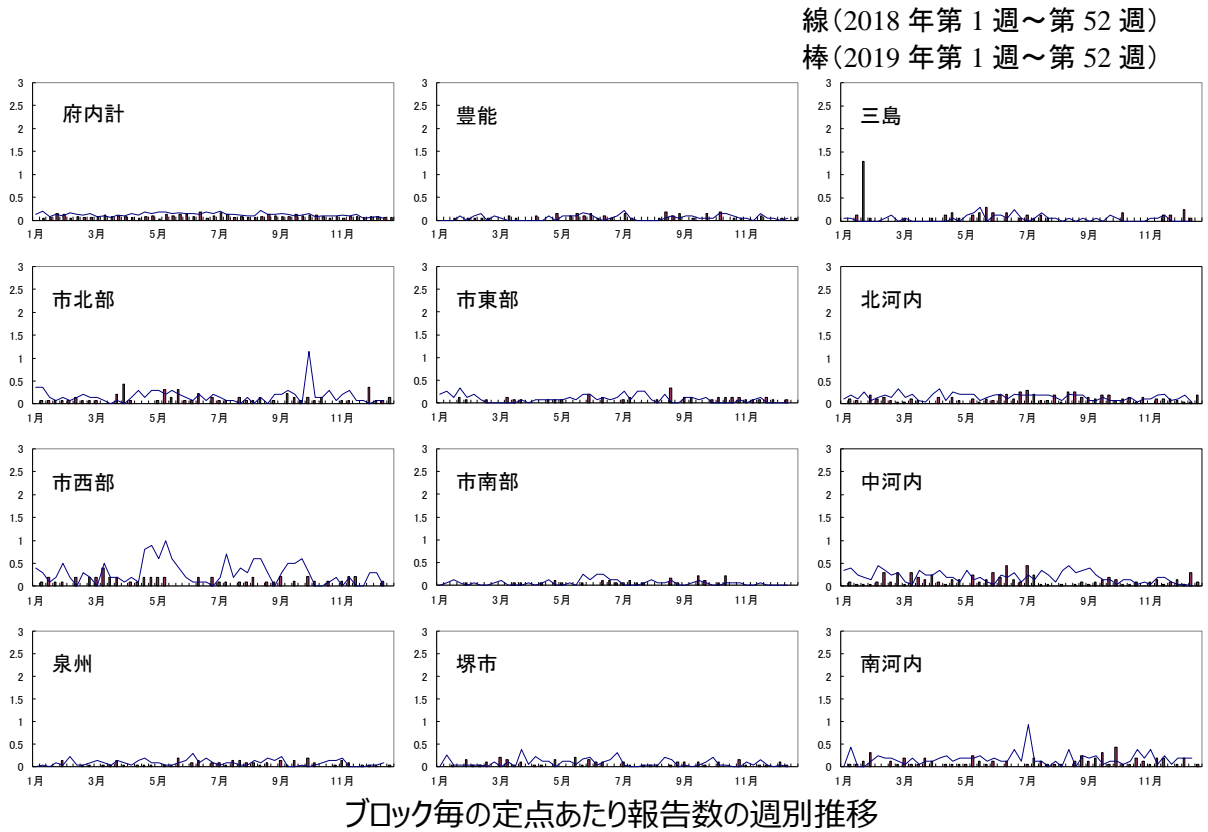
ブロック別定点あたりの年平均報告数の上位 5 ブロックは、④中河内（0.13）、③北河内・⑤南河内・⑨大阪市西部（0.11）、⑧大阪市北部（0.10）の順であった。

ブロック別・週別定点あたりの報告数の上位 6 ブロックは、②三島（第 3 週、1.29）、④中河内（第 24 週、0.45）、④中河内（第 27 週、0.45）、⑤南河内（第 40 週、0.44）、⑧大阪市北部（第 13 週、0.43）の順であった。

病原体定点医療機関からのウイルス検体の提出はなかった。

（文責：富吉）

流行性耳下腺炎



3) 眼科定点把握疾患

●急性出血性結膜炎

2019 年の急性出血性結膜炎の報告数は、21 例で前年より 24 例減少し、一定点眼科医療機関あたり 0.01 であった。

週別発生状況では、府内合計で定点あたり最高が、第 17 週と第 20 週の 0.06 (3 例) で、第 24 週と第 35 週の 0.04 (2 例) が続いた。報告の無い週が 37 週あった。

年間平均ブロック別で定点当たり高かったのは、③北河内の 0.03 で、以下⑦泉州の 0.02、⑤南河内、⑥堺市、⑨大阪市西部の 0.01 と続いた。他の 6 ブロックからの報告はなかった。

年齢別では、本疾患も流行性角結膜炎と同様に例年成人の発生が多く、20 歳以上の報告数が 17 例と、全体の 81.0%を占めた。

最近 5 年間の一眼科定点あたりの急性出血性結膜炎発生例件数

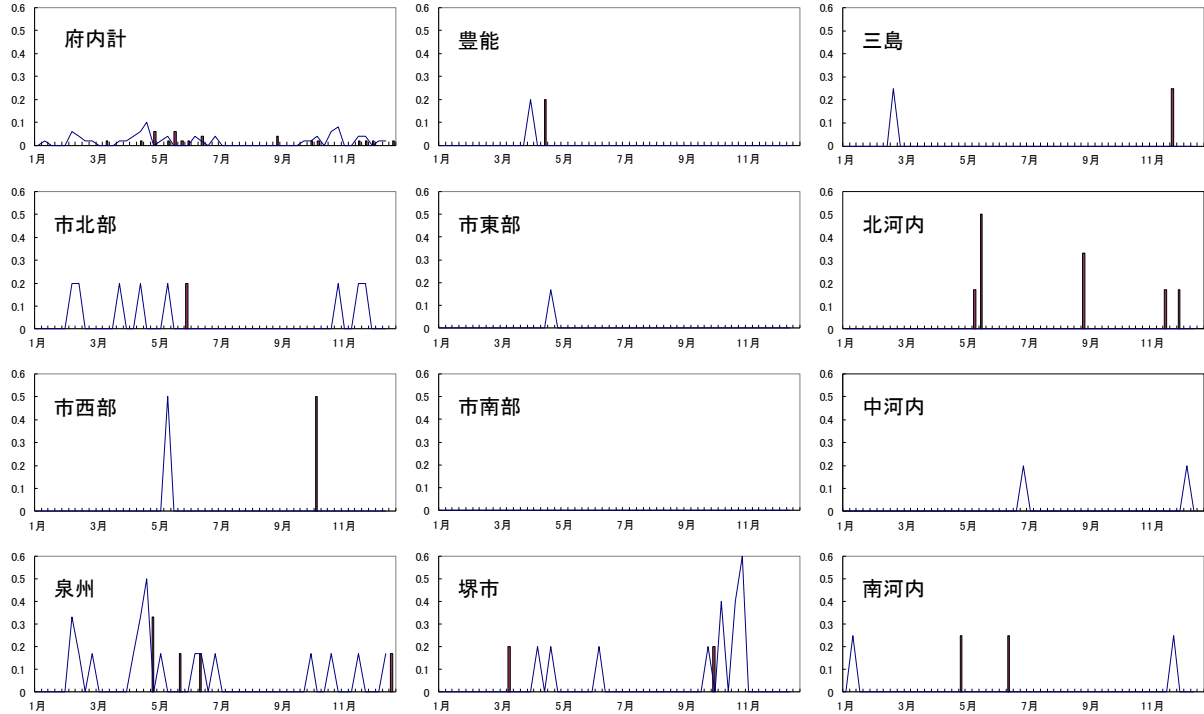
	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
大阪府	0.02	0.01	0.02	0.02	0.01
全 国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01

(文責 宮浦)

急性出血性結膜炎

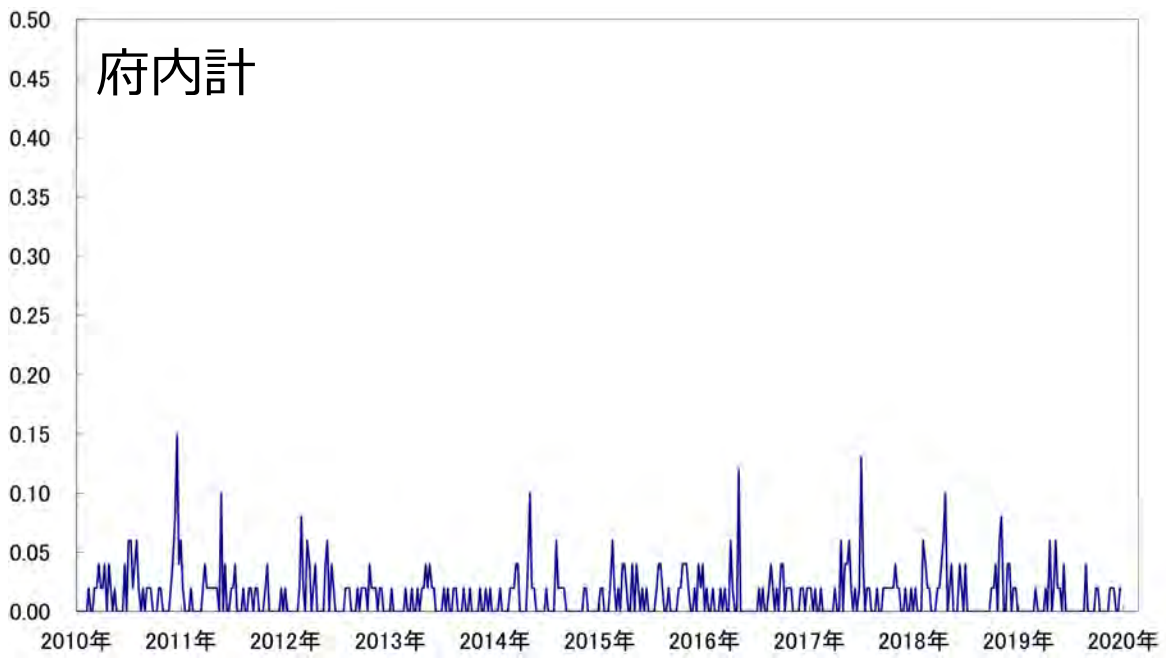
線(2018年第1週～第52週)

棒(2019年第1週～第52週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線(2010年1週～2019年52週)



定点あたり急性出血性結膜炎報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

●流行性角結膜炎

2019 年の流行性角結膜炎の報告数は前年の 31.9%減の 875 例で、一定点眼科医療機関あたり 0.32 であった。

週別発生状況では、府内合計で最も報告数の多かったのは、第 34 週の定点あたり 0.67 で、第 2 週の 0.58 がこれに続き、以下、第 31 週の 0.56、第 27 週と第 35 週、第 36 週の 0.54 となり、前年同様に府内で定点あたり 1.0 を超えた週はなかった。本疾患は夏型感染症とされており、発生件数が多いとその傾向は顕著になる。本年は、第 27 週から第 35 週（7 月～8 月）までの 9 週に全体の 25.1%、第 36 週から第 44 週（9 月～10 月）までの 9 週に全体の 18.4%の報告があった。

ブロック別・週別では、定点当たりの報告数が最も多かったのは⑧大阪市北部第 27 週の 3.50 で、次いで⑧大阪市北部第 28 週、⑤南河内第 34 週と⑥堺市第 34 週の 2.0 となり、以下②三島 2 週の 1.5、⑥堺市第 35 週と④中河内第 38 週の 1.4 が続いた。

年間平均ブロック別で報告数が最も多かったのは、⑤南河内 0.52 で、以下⑦泉州 0.42、⑨大阪北部 0.41、④中河内 0.40、⑥堺市 0.37 の順であった。最も低かったのは、⑩大阪市西部の 0.22 であった。

年齢別では、例年どおり成人（20 才以上）の発生件数が多く、本年も 610 例と全体の 69.7%を占めた。

本年も、大阪府内の定点あたりの報告数は、全国集計よりも低かった。

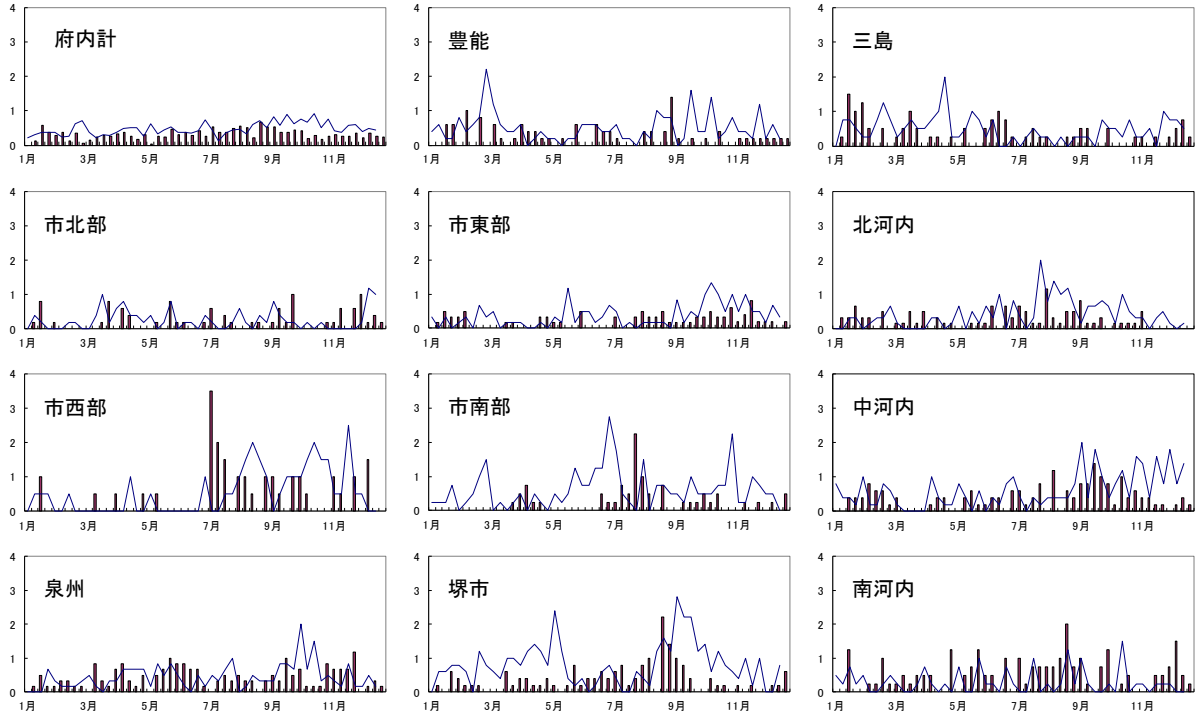
最近 5 年間の一眼科定点あたりの流行性角結膜炎発生例件数

	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
大阪府	0.38	0.54	0.41	0.48	0.32
全 国	0.69	0.73	0.74	0.85	0.64

(文責 宮浦)

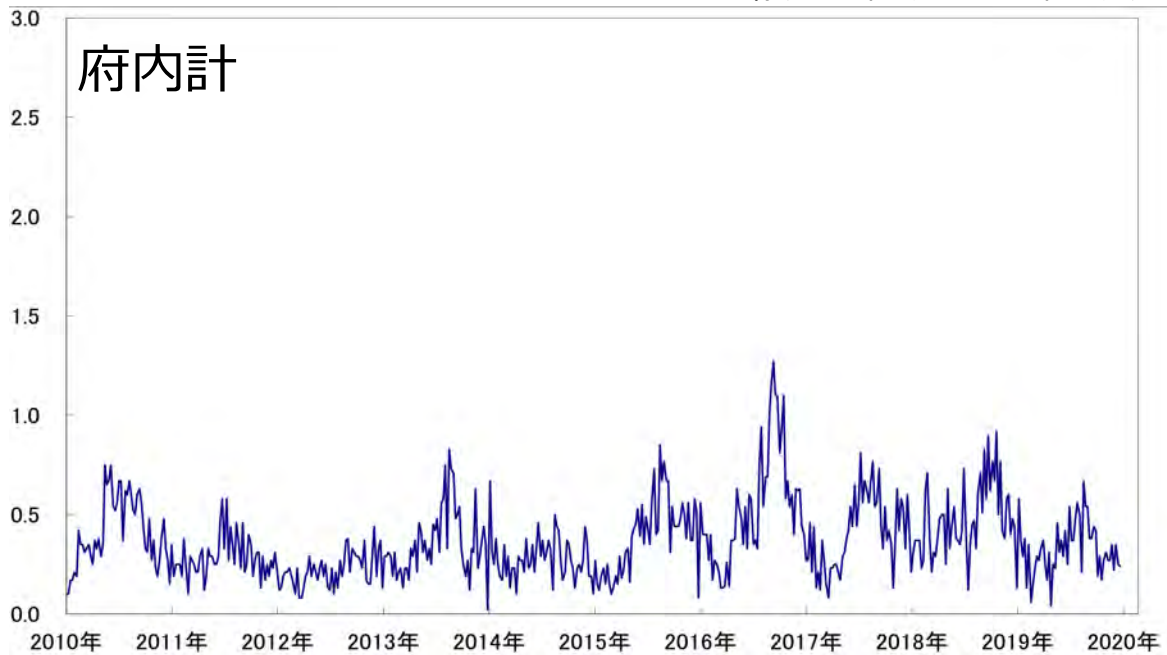
流行性角結膜炎

線(2018年第1週～第52週)
棒(2019年第1週～第52週)



ブロック毎の定点あたり報告数の週別推移

線(2010年1週～2019年52週)



定点あたり流行性角結膜炎報告数（府内計）の週別推移（10年グラフ）

4) 基幹定点報告（週報）対象疾患

基幹病院定点報告（週報）対象疾患は、5類感染症の中の細菌性髄膜炎（2013年4月から髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌による、髄膜炎を含む侵襲性感染症が、2014年9月から播種性クリプトコッカス症が全数報告疾患となったので、本項の対象疾患から除く。）、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎（オウム病を除く）、及び、2013年10月から報告対象となった感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る、以下ロタウイルス胃腸炎）の5疾患である。

表 基幹病院定点報告（週報）対象疾患のブロック別報告数および定点あたり報告数

ブロック (年)	細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	
	2018年	2019年	2018年	2019年	2018年	2019年	2018年	2019年	2018年	2019年
(1)豊能	1	2	5	7	6	6	1	1	18	52
(2)三島	4	7		1	12	24			15	48
(3)北河内					39	30			5	9
(4)中河内	1		1	2	8	13			16	20
(5)南河内	5	1	5		5	2			82	49
(6)堺	5		14	20	30	31	1		42	55
(7)泉州	2	8	1	1	53	10			18	85
大阪市	1				12	13			43	64
合計	19	18	26	31	165	129	2	1	239	382
定点あたり大阪	1.12	1.10	1.53	1.90	9.71	7.91	0.12	0.06	14.06	23.44
定点あたり全国	1.06	0.96	1.68	1.71	11.66	12.68	0.30	0.13	6.74	9.82
定点数	17	16	17	16	17	16	17	16	17	16

表には2018年2019年の大阪府・市の各基幹定点からの報告数を示した。基幹病院数は16ある。1999年の事業開始時から病院間で報告症例数の差が大きく、ブロック別の検討はしなかった。

以下に、各疾患について述べる。

●細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、クリプトコッカスを除く）

18例が報告されている。定点あたり1.10で、2018年は19例、定点あたり1.12であった。例年のようにロタウイルスが原因とする細菌性髄膜炎の小児例があり、本年は8例と多いので、これを除くと10例、定点あたり0.56となる。因みに、本調査で細菌性髄膜炎症例中のロタウイルス検出例は2017年18例中4例、2018年19例中2例であった。以下の検討からはロタウイルス例は除外した。年齢は1カ月1例、5～9歳が2例、10歳代1

例、20歳代1例、30歳代2例、50歳代1例、70歳代1例で、80歳代1例であった。原因菌には肺炎マイコプラズマ3例、リステリア菌1例（9歳）、A群溶血性連鎖球菌1例（8ヵ月）であった。陰性・未記載が5例で、これらが細菌性髄膜炎に該当するのか、ウイルスを含めた髄液の核酸検出による原因微生物の同定検査の普及を期待したい。髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、クリプトコッカスによる髄膜炎は5類全数報告を参照されたい。また、肺炎マイコプラズマを細菌性髄膜炎の原因とすべきか、明確な規定が望まれる。

全国集計では2019年は477例の報告があり、定点あたり0.96、2018年は定点あたり1.06であった。原因菌にはB群レンサ球菌6.3%、肺炎球菌3.6%、肺炎マイコプラズマ5.6%、黄色ブドウ球菌2.3%、大腸菌3.2%（合計）、リステリア菌3.6%、肺炎球菌2.6%、肺炎マイコプラズマ3.6%などが多いが、また、原因菌がウイルスおよび原因菌不明の症例が合計58.2%を占めていた。

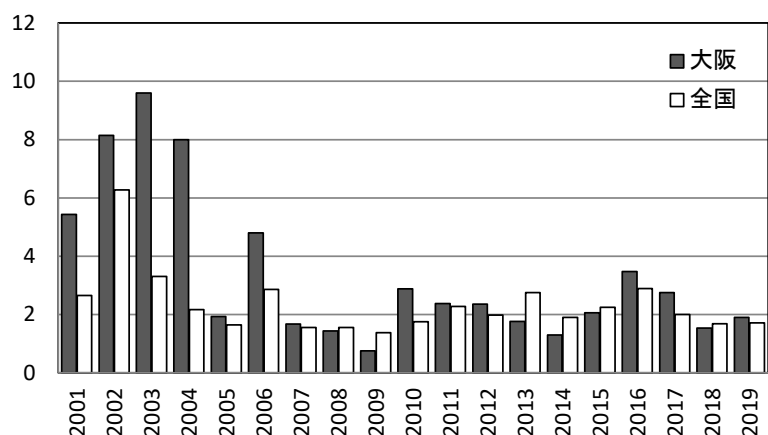
●無菌性髄膜炎

2019年は31例が報告され、定点あたり1.90で2018年は26例、定点あたり1.53で、前年比19.2%増であった。年齢は0～4ヵ月2例、1～4歳3例、5～9歳3例、10～14歳2例、15～19歳2例、20歳代4例、30歳代8例、40歳代2例、50歳以上5例であった。0～9歳の割合が全体の25.8%で、2018年は35%であった。65%は⑥堺市の1病院から報告された。月別では7月6例、8月5例、12月5例で、7～12月に81%の症例があった。原因微生物としては、水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）2例であった。一方、本報告書のウイルス検査結果では無菌性髄膜炎症例の髄液や便・咽頭などから57例のべ59株が検出され、エコーウイルス（E）30型38例が最も多く、他は3例以下で、E30は7月～12月に98%が検出されており、2019

年後半に大阪ではE30髄膜炎の流行があったといえよう。E30髄膜炎は大阪では2003年、2007年、2013～2014年に多かった。

図1に大阪府と全国の年間の定点あたりの報告数の推移を示す。大阪府では2007年以

図1 無菌性髄膜炎 年別基幹定点あたり報告数



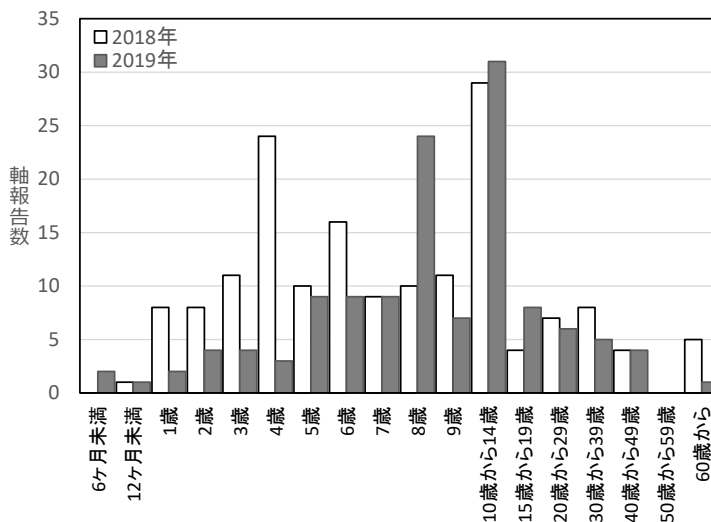
後無菌性髄膜炎の大きな流行がない。

全国集計では2019年は811例、定点あたり1.71、2018年は806例、定点あたり1.68で、2019年は前年並みであった。原因病原体は88.0%が不明、VZV 25例、クリプトコッカス計11例、単純ヘルペス9例、エンテロウイルス計6例、肺炎マイコプラズマ16例などである。国立感染症研究所のデータを参照すると無菌性髄膜炎の原因ウイルスでは501例中E30型26.1%、CB5型6.8%、CB3型5.2%、などが多かった。

●マイコプラズマ肺炎

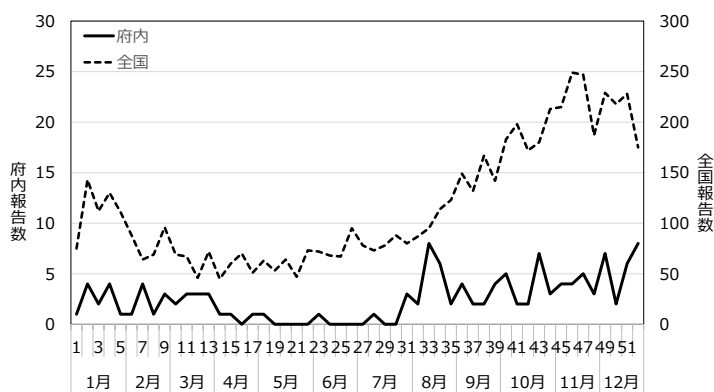
129例の報告があり、定点あたり7.91で、2018年の定点あたり9.71に比し21.8%減であった。年齢分布は(図2-1)8歳をピークに、5歳~12歳に多かった。2019年の府内の週別報告数および全国の週別報告数を図2-2に示した。流行年は週あたり10例以上の報告があるが、2019年は前半は0~4例、例年のごとく、年後半の方が多いが、週あたり0~8例と少なかった。月別では12月が最も多かった。全国では夏以降にわずかな増加がみられている。

図2-1 マイコプラズマ肺炎の年齢分布



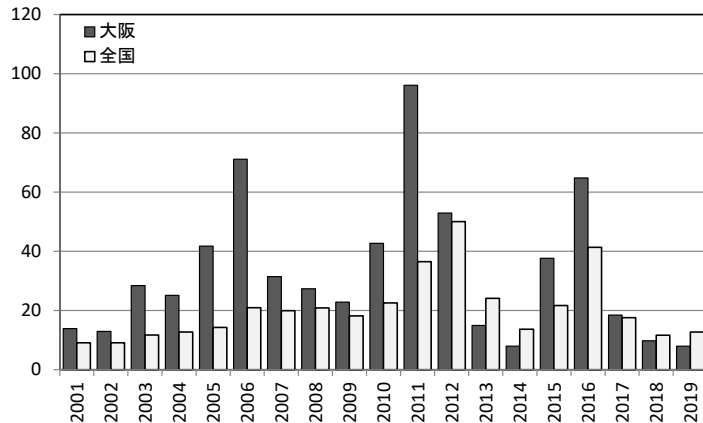
全国集計では2019年は定点あたり12.68で、2018年の11.66に比し、8.7%増であった。図2-3に大阪府と全国のマイコプラズマ肺炎の年間の定点あたり報告数の推移を示す。大阪では2016年、2011年、2016年をピークとする流行があった。全国では2012年、2016年をピークとする流行があった。1990年代はじめまで日本では4年毎の流行周期がみられたが、諸外国では4~5年の流行周期が持続していると報告されている。

図2-2 マイコプラズマ肺炎の週別報告数



診断方法は核酸検出（PCR・LAMP 等）が 44.2%、抗原検出が 26.4%、血清抗体価が 29.5%で、2016 年以後の検査方法の選択に、大きな変化はみられない。抗原検出の低い感度・偽陽性の存在、血清抗体価の上昇までの日数、高抗体価の長期間の持続に、診断上の注意が必要である。急性期の検査として、核酸検出は感度、特異性が最も優れている、と報告されている。

図 2-3 マイコプラズマ肺炎 年別基幹定点当たり報告数



●クラミジア肺炎（オウム病を除く）

クラミジア・トラコマチス (*Chlamydia trachomatis*) による新生児期の肺炎と肺炎クラミジア (*Chlamydia pneumoniae*) による肺炎が含まれる。オウム病 (*Chlamydia psittaci*) は 4 類全数報告感染症である。

2019 年は 1 例の報告で、9 歳、男、病原体はその他の検査方法により、結果は肺炎マイコプラズマとなっている。2018 年は 2 例の報告であった。クラミジア肺炎は抗体検査で診断されてきたが、以前から、特異性が低いとされており、米国 FDA が認可した抗体検査キットはなく、米国 CDC は抗体検査を勧めていない。全国集計では 95 例の報告で、定点あたり 0.13 で、2018 年の 56.7%減で、クラミジア肺炎の報告数の減少が続いている。その要因は、信頼できる血清診断が存在しないことによるものであろう。多種類の呼吸器感染症のウイルス、細菌の検出が可能な病原体遺伝子診断機器の普及が望まれる。

●感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る、以下ロタウイルス胃腸炎）

382 例が報告され、定点あたり 23.44 で、2018 年に比し 59.8%増であった。週別報告数は 2018 年の第 47 週から⑥堺、⑤南河内から報告が増加し、2019 年第 4 週からは両ブロックと大阪市の増加により、10 を超えはじめ、⑦泉州に広がり、第 12 週に 34、②三島、④中河内にも広がり、第 17 週にも 34 のピークがあり、第 24 週以降は 10 未満となった。図 3 にはロタウイルス胃腸炎報告数の週別推移を示した。

年齢は 2 歳が 15.2%と最も多く、1 歳 14.4%で、0~4 歳で 67.5%を占めた。2018 年と比較すると 1 歳は 6%と微増であるが、0~4 歳 56%増、5-9 歳 134%増で 0~14 歳まで増

加していた。2019年のロタウイルスは、1歳を除く小児に、幼児期を主とする小流行があったといえよう。図4には年齢分布を示した。

2011～2012年に認可された、二つの任意接種の弱毒生ロタウイルスワクチンの初回の接種は生後6週～15週未満が推奨され、対象児の接種率は60%～80%という調査報告もある。2020年10月には定期接種化が予定されている。

低い接種率でも集団免疫効果も加わって、大きく入院数が減少しているといわれる。また、ワクチン被接種児が本症で入院することは少ない。本調査はワクチン任意接種の開始後の2013年途中から始まり、2014年以後の報告数は定点当たり13.5、17.2、23.0、13.96、14.06と増加後に減少に転じたが、4年目から横ばい、本年は増加した。

全国では定点当たり9.82で2018年6.74で、報告数は45.7%増であった。

図3 ロタウイルス胃腸炎の週別報告数

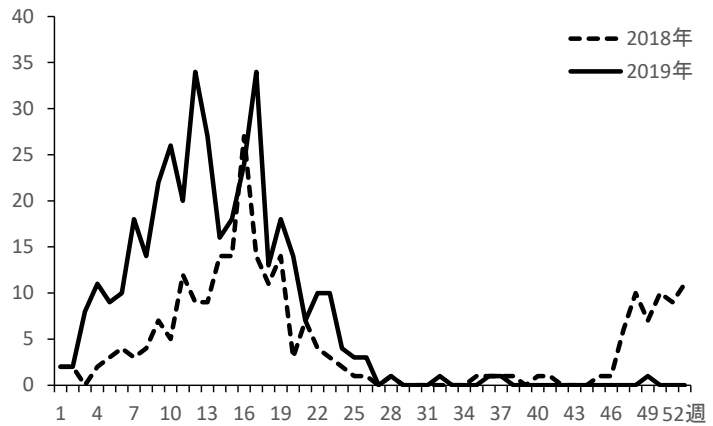
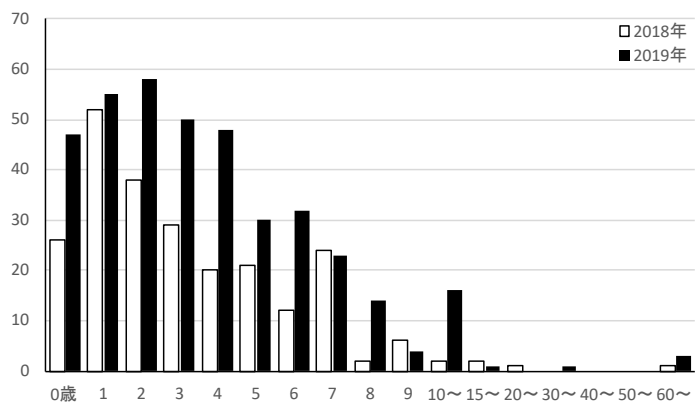


図4 ロタウイルス胃腸炎の年齢分布



(文責:塩見)

5) 基幹定点報告（月報）対象疾患

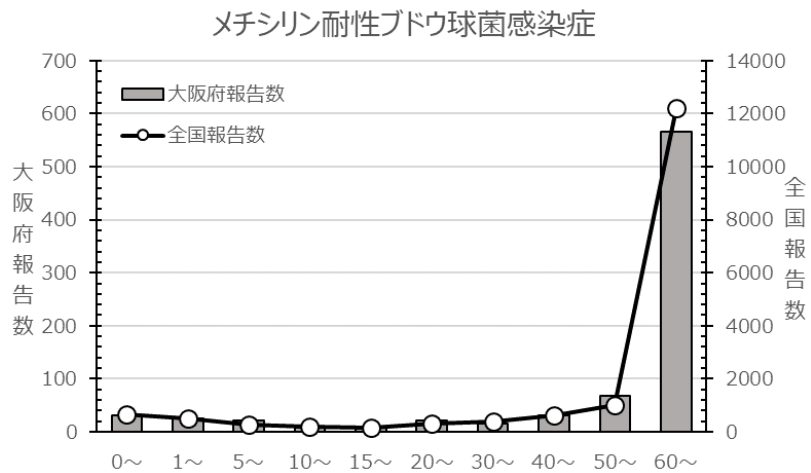
基幹定点報告（月報）対象感染症は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の3疾患である。基幹定点報告（月報）対象感染症を報告する大阪府内の基幹病院定点数は16であった。これら薬剤耐性菌は抗菌薬の不適切な使用を背景として、薬剤耐性菌が世界的に増加する一方、新たな抗菌薬の開発は減少傾向にあり、国際社会でも大きな課題となっている。

●メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

⑩大阪市東部を除く10ブロックから前年比11.1%減の795例の報告があり、定点あたり報告数は48.9であった。年齢別構成は0歳児31例、1～4歳児25例、5～9歳児21例、10～14歳8例、15～19歳7例、20～29歳22例、30～39歳16例、40～49歳31例、50～59歳68例、

60歳以上566例であり、60歳以上が71.2%を占め、ほぼ前年同様の分布であった。

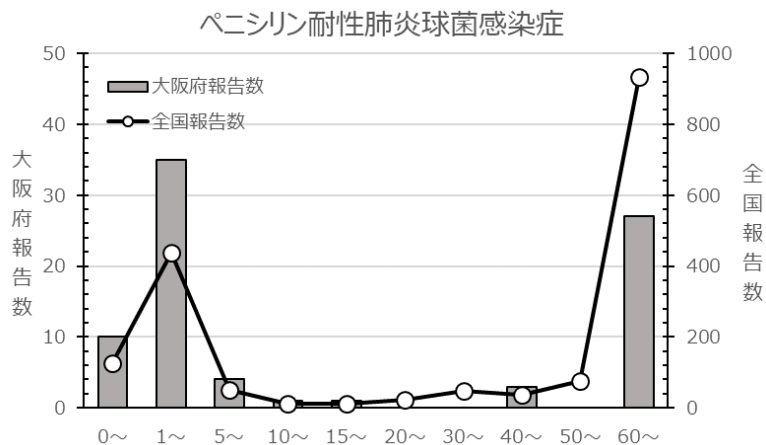
全国情報（NESID年報 2020年3月7日現在）では前年比0.4%減の16,240例の報告があり、定点あたり報告数は33.8と大阪府より少なかった。全国の年齢別構成をみると60歳以上が12,207例と75.2%を占めた。大阪府内の報告数は、全国の4.9%であった。



●ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

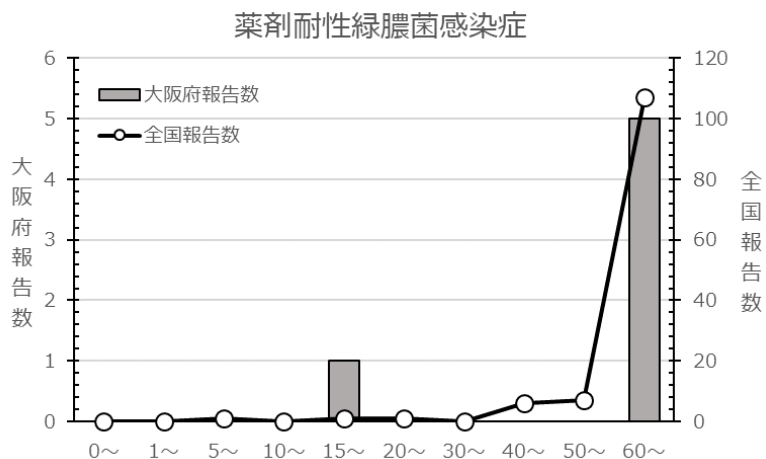
⑤南河内31例、⑥堺市16例、①豊能12例、②三島11例、⑦泉州11例の5ブロックから、前年比9.0%減の81例の報告があり、定点あたり報告数は4.98であった。年齢別構成では0歳児10例、1～4歳児35例、5～9歳児4例、10～14歳1例、15～19歳1例、20～29歳0例、30～39歳0例、40～49歳3例、50～59歳0例、60歳以上27例であり、**0～4歳児と60歳以上が多く、それぞれ55.6%、33.3%**であった。前年同様に0～4歳児と60歳以上の年齢群での報告数が多かった。

全国情報（NESID年報）では前年比7.4%減の1,754例の報告があり、定点当たり報告数は3.7と大阪府より少なかった。全国の年齢別構成をみると0~4歳児と60歳以上が多く、それぞれ32.2%、53.1%と大阪府と同様であった。大阪府内の報告数は、全国の4.6%であった。



●薬剤耐性緑膿菌感染症

⑧大阪市北部2例、①豊能1例、②三島1例、③北河内1例、⑤南河内1例の5ブロックから6例報告があった。前年度17例から6例に減少した。定点当たり報告数は0.37であった。年齢別構成は、60歳以上が5例であり、83.3%を占めた。



全国情報（NESID年報）では前年比1.6%増の123例の報告があり、定点当たり報告数は0.26と大阪府より少なかった。全国の年齢別構成をみると60歳以上が107例と87.0%を占めた。大阪府内の報告数は、全国の4.9%であった。

(文責：山口)

2020年5月20日 大阪府医師会より、府医ニュースとして掲載した。

（13）2020年（令和2年）5月20日（毎週水曜日発行、但し第2週を除く） 大阪府医ニュース （昭和25年9月7日第三種郵便物認可（第2928号））

2019(令和元)年 感染症の動向

大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市・豊中市・枚方市・八尾市・寝屋川市
感染症発生動向調査委員会

感染症発生動向調査事業は医師会、大阪府、政令・中核市の密接な連携の下に実施されている。大阪府感染症情報解析委員会は毎週水曜日に開催され、定点の先生方からの毎週の患者情報と、大阪健康安全基盤研究所（森ノ宮センター、天王寺センター）、堺市衛生研究所の病原体検出情報とを併せて解析・評価し、還元している。2019年の感染症発生動向調査結果の概要を報告する。

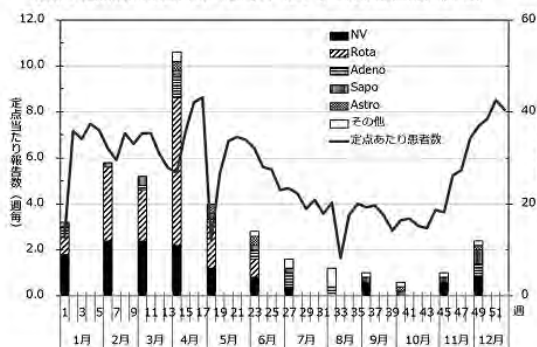
はじめに

2019年、大阪府の小児科定点は197、インフルエンザ定点は301、眼科定点は52、基幹病院定点は16であり、前年とほぼ同様である。1年間の患者報告数は137,687人で前年より19.9%増加した。インフルエンザを除く疾患別では感染性胃腸炎が1位であり、次いでA群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、RSウイルス感染症、伝染性紅斑の順である。第6位以下は、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、突発性発疹、水痘、流行性角結膜炎、流行性耳下腺炎、急性出血性結膜炎であった。上位5疾患はそれぞれ全体の40.2%、16.3%、15.1%、9.1%、5.0%で、5疾患の合計が全体の85.7%を占めた。

【感染性胃腸炎】

第1位の感染性胃腸炎の患者報告数は55,374人で、前年に比し0.3%増加し、定点あたり報告数は、5.39であった。年齢別では1歳で8,716人（15.7%）と最も多く、2歳が6,533人（11.8%）、3歳が5,562人（10.0%）であり、3歳までで全体の37.6%を占めた。季節別では春期（3月～5月）に29.8%、夏期（6月～8月）に20.0%、秋期（9月～11月）に18.4%、冬期（12月～2月）に31.8%と春期と冬期に多かった。週別定点あたり報告数では第17週（8.64）と第51週（8.51）とにピークがあった。検出されたウイルスは、ロタウイルスが77株、ノロウイルスが66株、アデノウイルスが19株、サポウイルスが10株、アストロウイルスが8株、エコーウイルスが6株、ヒトノレコウイルスが2株であった（図1）。基幹定点医療機関からの届出でロタウイルス感染性胃腸炎の報告数は382人であった。

（図1）感染性胃腸炎ウイルス分離状況
 実線：定点あたり患者数（週毎）、棒：ウイルス検出数（月毎）



【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第2位のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は22,513人で、前年に比し5.7%増加し、定点あたり2.19であった。年齢別では、4歳が3,097人（13.8%）で最も多く、5歳が3,092人（13.7%）、6歳が2,789人（12.4%）、3歳が2,473人（11.0%）と続き、全体の50.9%を占めた。季節別では、春期に28.6%、夏期に22.4%、秋期に21.3%、冬期に27.7%であり、春期と冬期に多かった。週別定点あたり報告数では第22週（3.37）と第51週（3.51）とにピークがあった。

【手足口病】

第3位の手足口病は20,733人で、前年に比し4.2倍に増加し、定点あたり2.02であった。年齢別では1歳が7,380人（35.6%）で最も多く、2歳が4,363人（21.0%）、3歳が2,451人（11.8%）、6か月から12か月未満が2,169人（10.5%）と続き、全体の78.9%を占めた。季節別では、春期に17.8%、夏期に69.1%、秋期に10.3%、冬期に2.8%であり、夏期に多かった。週別定点あたり報告数では第24週（10.05）が最も多く、次いで第25週（9.15）、第26週（9.04）であった。

【RSウイルス感染症】

第4位のRSウイルス感染症は12,478人で、前年に比し2.6%増加し、定点あたり1.22であった。年齢別では1歳が4,337人（34.8%）で最も多く、6か月～12か月未満が2,487人（19.9%）、2歳が2,092人（16.8%）、6か月未満が1,979人（15.1%）であり、全体の86.5%を占めた。季節別では、春期に17.7%、夏期に16.9%、秋期に51.1%、冬期に14.3%であり、秋期に多かった。週別定点あたり報告数では第37週（4.55）が最も多く、次いで第38週（4.26）、第39週（3.85）であった。

【伝染性紅斑】

第5位の伝染性紅斑は6,840人で、前年に比し4.26倍に増加し、定点あたり0.67であった。年齢別では、5歳が1,218人（17.8%）で最も多く、4

歳が1,095人（16.0%）、6歳が947人（13.8%）、3歳が804人（11.8%）であり、全体の59.4%を占めた。季節別では、春期に21.9%、夏期に36.2%、秋期に24.2%、冬期に17.7%であり、夏期に多かった。週別定点あたり報告数では第27週（1.31）が最も多く、次いで第29週（1.29）、第26週（1.22）であった。

【インフルエンザ】

インフルエンザの患者報告数は88,389人で前年に比し10.1%減少し、定点あたり5.63であった。年齢別では20歳以上の年代が22,094人（25.0%）と最も多く、次いで10～14歳が14,237人（16.1%）、5歳が5,952人（6.7%）であった。18/19シーズンは週別定点あたり報告数が警戒レベルの30を超えたのは第2週（36.88）、第3週（46.38）、第4週（47.99）、第5週（34.63）であった。第18週に1以下（0.88）になり終息した。19/20シーズンは第17週に1を超えた（1.21）。18/19シーズンに検出されたインフルエンザウイルスはAH3亜型が131株、AH1 pdm09が105株、B型Victoriaが20株、B型Yamagataが3株であった。AH3亜型、AH1 pdm09ともに1月にピークがあった。19/20シーズンの11月から12月までに検出されたインフルエンザウイルスはAH3亜型が7株、AH1 pdm09が107株、B型Victoriaが1株であった（図2）。

おわりに

1982（昭和57）年に感染症発生動向調査事業を開始して37年が経過しました。この間、関係各位のご理解・支援により、貴重な調査結果が集積されています。これらの調査結果の解析や発信が医療や感染症対策に資し、府民の健康・安心・安全に寄与しています。2020年も、ご理解・支援のほどをお願いいたします。

報告：東野 博彦（河内医師会）

（図2）インフルエンザウイルス分離状況
 実線：定点あたり患者数（週毎）、棒：ウイルス検出数（月毎）

